

# TOTO

2022年 新春号

Toward a Creative  
Architectural  
Scene

# 通信

融 建 植 特  
合 築 物 集  
の と

Special Feature  
The Fusion of  
Greenery  
and  
Architecture



コロナ禍で家にいる時間が長いと、庭やまわりの風景に目がいった人も多いのではない  
か。1年のあいだに建築はそれほど変わらないが、植物は次々と変化していく。植物  
は、まるで時の経過を示すシグナルのようだ。植物を介して建築の表情の変化を感じ  
ることもある。やはり「建築は竣工とともに完成するのではない」という想いがある。  
使われている期間にも建築は変化しつづけているのだ。経年変化もするし、増築も減  
築もあり、設備や家具も入れ替わる。植物も、その変化のひとつ。植物は生物なので  
もちろん変化するが、それとともに建築の表情も変わっていく。竣工直後の写真では  
描写しきれない、建築と植物の時を越えた連携を特集する。

# 建 植

# 築 物

# の と

# 集

シリーズ

設計 藤野高志	植栽 太田敦雄	4	旅のバスルーム115(最終回)	文・スケッチ/浦 一也	グリーン・マリア・テレジア(イタリア・トリエステ)	40
設計 平田晃久	植栽 塚田有一	14	現代住宅併走51	文/藤森照信	「高床の家」	
設計 前田圭介	植栽 荻野寿也	24		設計/福島加津也 + 中谷礼仁/千年村計画		
設計 川原田康子+比嘉武彦	植栽 湊 真人	32		福島加津也 + 富永祥子建築設計事務所		42
			最新水まわり物語57	TOKYO TORCH	常盤橋タワー	48
			News File	TOTO News, Cera Trading News, Book		54

表紙/「天神山のアトリエ」の夕景。表紙撮影/藤塚光政  
編集制作/伏見編集室  
デザイン/岡本一宜デザイン事務所 印刷/ゼネラルアサヒ

# 融

Special Feature  
The Fusion of  
Greenery  
and  
Architecture

# 合

「森のすみか」の天窓。(撮影/桑田瑞穂)

## TOTO 通信

Toward a Creative  
Architectural Scene  
Number 529  
New Year 2022

ケーススタディ1	植物×アトリエ	植物が五感を刺激する	「天神山のアトリエ」
ケーススタディ2	植物×集合住宅	自然と街の記憶が宿るよりしろ	「Overlap House」
ケーススタディ3	植物×住宅	植物との共生にリアルに向き合う	「森のすみか」
ケーススタディ4	植物×オフィスビル	造園を通して地域とオフィスをつなぐ	「LIGUNA/0」

『TOTO通信』は  
インターネットでも  
ご覧いただけます。



Q <https://jp.toto.com/tototsushin>



現在  
2021/8



「春は花の香りに満たされ、夏は机に木陰ができ、  
秋は落葉が降り、冬は暖かな陽が地面に届く」  
五感を刺激し、移りゆく四季を感じさせる植物たちは、  
人間のつくりえない環境装置として  
空間をさらに豊かにしている。

取材・文／植林麻衣 写真／藤塚光政



Special Feature  
The Fusion of  
Greenery  
and  
Architecture  
Case Study

01

Fujino Takashi

Ota Atsuo

竣工から10年。南面の黄金葉ツタはコンクリート壁をすっかり覆いつくし、建築と一体化してファサードになった。

植物が五感を刺激する

# 植物×アトリエ

作品

## 天神山のアトリエ

設計

藤野高志

生物建築舎

植栽

太田敦雄

ACID NATURE 乙庭



竣工 2011/1



約8mの天井に到達した  
オリーブやレモンユーカリ  
が、天井いっぱいに枝を  
伸ばしている。

# つくり手が描いた 物語を超える 植物の力

「天神山のアトリエ」が竣工したのが2011年1月になります。この10余年を振り返って、いかがですか。

藤野高志 竣工当時は南面の入口にある植物群は小さくささやかな存在でした。アトリエ内部も細い樹木が数本頼りなげに立っているだけ。木々が成長しても支障がないように、最高高さは約8mで設計したのですが、今や主木のレモンユーカリやオリブは天井に到達し、上にはいけないので横に枝葉を伸ばしつつあります。

太田敦雄 竣工は完成ではなく、スタートです。植栽は設計図どおりにつくられても、その後の運命は人生のように多様な歩み方や岐路があり、予想できないのがおもしろい。藤野さんのアトリエを訪ねるのは数年ぶりですが、がらりと様子が変わっていて驚きました。とくに南側の外壁沿いに植栽した黄金葉のツタは、繁茂する範囲は高さ・幅ともに5m程度といわれていますが、この場所に合っているのか、通常より大きく育ち、屋内に入ってきています。

藤野 室内で植物が育つと、葉からの蒸散作用で天井や壁が結露します。対策として有圧換気扇を回していたのですが、数年後にはそれでは足りなくなり、南側の高窓を365日開放しにするようにしたのです。その窓からツタが入り込み内壁も覆いました(笑)。結果としてツタが地面から吸い上げた水が網目状に壁を冷やし、葉が壁を影

で覆い、夏の暑さがやわらぎます。室内に植物があると、季節に応じて陽をささぎったり取り入れたりしてくれて、よい香りもする。あらためて植物は人間にはつくりえない高度な環境調整装置だと気づきました。太田 私がこの植栽の生みの親だとすると、藤野さんは育ての親。私が選んだ小さな植物たちが、想定を超えてじつにこの場所の植物らしく育って空間と響き合っている。

Fujino Takashi



## 建築家 藤野高志

植物は人間にはつくりえない高度な環境調整装置だと気づかされました。

藤野さんが植物の力を許容しているからこそ、この空間ができているんですね。

「天神山のアトリエ」の建築と植栽計画のコンセプトをお話しいただけますか。  
藤野 土地の所有者からここを利活用したいと相談を受けたのですが、幹線道路に面して交通量が多いので、住宅よりも店舗がよいだろうと考えました。また当時、私は独立したばかりで、自宅の子ども部屋を事務所にしていて手狭だったので、自分で設

計して借りることにしたのです。最低限の住居機能も備えていて、竣工後2年ほどここに住んでいました。太田さんに植栽を相談したのは、設計の初期の段階でしたね。太田 私は藤野さんが設計した庭付き集合住宅に住んでいたんです。日々変わっていく私の庭を藤野さんをご覧になり、アトリエの植栽計画を依頼されました。私自身も建築学科で設計を学びましたが、このプロジェクトを機に植栽家としての人生を歩みはじめました。

藤野 「天神山のアトリエ」は4枚の壁と屋根だけの原形的な建築です。各壁面には棒グラフのような縦長窓を設け、天井はガラス面を通じて空の動きを映します。木々が自由に根を張れるよう基礎は外周のみ、また幹線道路の騒音・振動対策のため鉄筋コンクリート造とし、一発打ちのシームレスな壁にしたく、高流動コンクリートを用いました。太田 植栽計画については、藤野さんから「ここに主木が

ほしい」など具体的な要望ではなく、ここで過ごしたいシーンのイメージが語られました。「春は花の香りに満たされたい／夏は机に木陰ができるように／秋は寝覚めのベツドに落葉が降って／冬は暖かい陽が地面に届く」といった具合です。

藤野 高崎で独立する前は銀座や会津で働いていて、大都会あるいは雪深い山間部といったダイナミックな環境の中にいたんです。けれども地元に戻ったら中庸な時間が



→南側の本棚の梯子からアトリエを見下ろす。まるで森の中に机を置いているよう。

←住居スペースより北側の角を見る。奥の木のボックスはトイレ。天井の枝がこちらまで伸びてきている。



# 01



玄関と本棚。高窓上部を一年中開け放していた結果、外のツタが入り込み内壁をも覆いはじめている。

## 上から 室内の樹木の成長を 定点観測する

竣工後から、藤野さんが暮らしていた約2年にわたって本棚の上から撮影。最初は身長ほどで細枝だった小さな樹木が、短期間のうちにものすごいスピードで成長したことがよくわかる。



2011/03/11



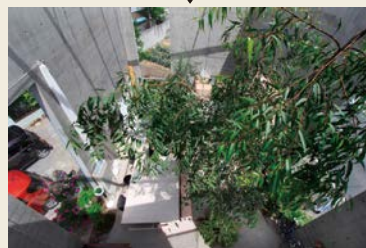
2011/07/27



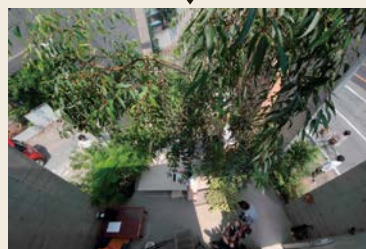
2012/04/28



2012/10/09



2013/05/21



2013/08/15

提供/藤野高志

流れているだけ。それでもものんびり毎日を過ごしていると、この地にもゆつくりと変化する時間と空間があることに気づきました。そんな微差を忘れず、日常的に環境の移ろいを感じしながら建築を考えてゆきたいと思い、つくったのがこのアトリエです。

## 目を瞑っても

## 見える

## 植物のある情景

——藤野さんが提示した抽象的なイメージを、どのように植栽を具体的に落とし込んでいったのでしょうか。

太田 環境の変化を感じ楽しむ建築なので、屋内外の区別を意識させない植栽がよいと考え、通常なら外の顔になる主木を屋内にも植えています。樹木の成長を可視化するため、あえて小さな苗木で植栽しました。また道ゆく人にも窓越しに樹木が見えるよ

うに大窓の位置とシンクロさせたり、植栽で動線を示唆するなど、樹木の配置はかなり建築的な思考で決定しています。室内といえば観葉植物を置くイメージが強いですが、本件ではジャカラндаやレモ

ンユーカリなど、どちらかといえば屋外に植えるような樹種を屋内の主木に選び、地植えています。これらは比較的温暖な環境を好み、冬がきびしい高崎では屋外に植えると寒さで越冬が難しい。それがガラス1枚に守られ生きながらえている。これらの樹種が建物の中に植えられている意味をさりげなく込めています。

藤野 植物を鑑賞するものとしてではなく、五感で感じられるように、香りの動線がつけられているのも特徴です。植栽計画の打ち合わせで、いわゆる植栽図ではなく、太田さんが箱に精油の瓶や植物の本物の葉を並べ、どんな香りが漂うのかを知覚で示してくれたことを覚えています。

太田 藤野さんは変化する環



Ota Asuno

## 植栽家 太田 敦雄

同じ計画でも、育てた人によって風景がまったく違ってくるのは、植栽の醍醐味ですね。



西側のジャカラнда (139) の根元。さらに根が成長し、突き固めた土の床を突き破っている。



アトリエ東側のオレンジマートル (平面図136) の根元。配線や配管は真砂土の下に埋没してある。



# 01

境を強く意識されており、動物的な感覚で居場所をデザインしようとしている。ならば植栽は五感で感じられるほうが、より「生物建築舎」らしいのではないかと。したがって、動線の出発点となる駐車場横にはオールドローズ、入口はハーブ類、アトリエ内は柑橘系、奥のプライベートゾーンは甘く重たい花の香り……と、目を瞑っていても景色が感じとれるような「香りの動線」

をつくっています。landscapeならぬ、aroma scapeですね。

——五感、というと音も含まれますか。

藤野 じつは、植物も音を出すのです。主木のレモンユーカリは、5月になるとピピッと音がした後、バリバリッと樹皮がはがれる。室内に入り込んだツタも、新しい芽が吹くタイミングで古い葉殻が一斉に開き、小さなプチプチという音を伴って、わずか

半日のあいだに雨のように降ってきます。

太田 室内だからこそその発見ですね。同じことが屋外で起こっていても自然な出来事として見過ごしてしまう。ものすごく劇的ではないけれど、樹皮がむけることや、葉から香りが漂うことを知ることができのり、日々の微差や小さな感動の連続ですよね。そのような積み重ねがあると、身のまわりで起きているさまざまな変化に気づけ

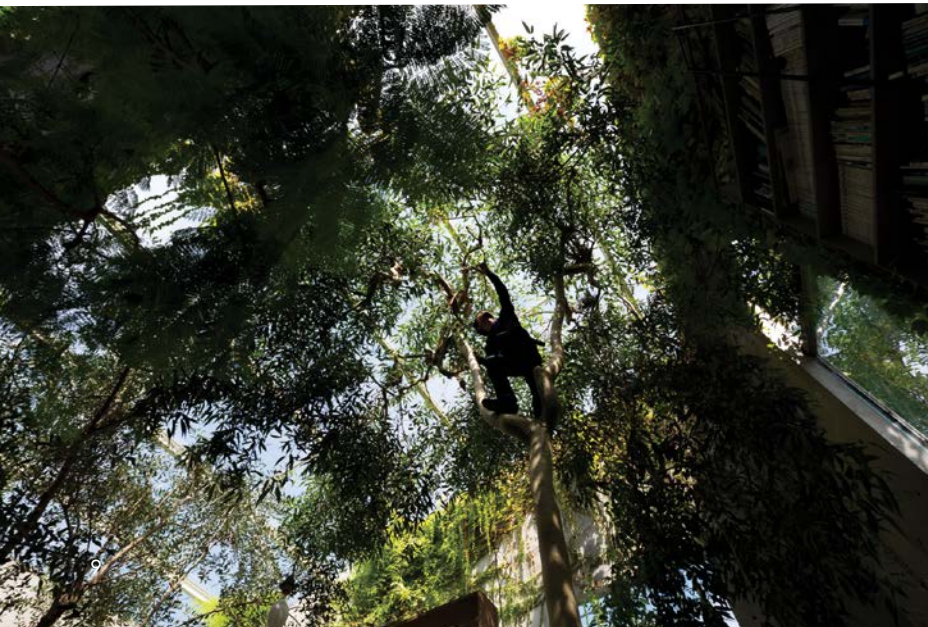
るようになり、物事を感じる解像度が上がると思うのです。

藤野 興味があるのはまさにそうした動的な風景ですが、揺れ動いているものを測るには絶対座標が必要で、私にとってはそれが建築です。方眼紙の座標のように静かでは無く、動くものの背景であってほしい、というのが私の建築観です。



↓生育が早いため、主木の剪定は2カ月に1回のペースで、事務所総出で行っている。

↑屋根の上ってガラス面を清掃する藤野さん。見ているうちに、内外の境界がわからなくなってくる。



人間を取り巻く物理的な空間は宇宙までほぼ無限に続いていて、建築はその膨大な広がりの中のほんの一部を囲いとする器にすぎません。けれども囲いがあることで人間は空間の広がりを感じることもできる。たとえばこのアトリエの四面の縦長窓は、一定の高さで風景を切り取る水平窓とは異なり、地面から近景・中景・遠景、さらに先の中空まで、自分を中心とした同心円的な空間の序列が視界に入ります。そこに植物や雲などが重なり、自分がどんな時間と空間の広がりの中にいるかを確かめられるのです。

## 日常は微差の連続で できている

——植物の手入れはどのようにされていますか。

**藤野** 1年目は大きくなれよと祈る気持ちで水をやっていましたが、2年目からは根が地下水の層まで到達したのか、自力で吸い上げるようになったので、以降水やりはしていません。主木の剪定は2カ月に1回、事務所総出で1日がかりです。虫はそれなりに悩みのタネで、主木のレモンユーカリなどは除虫効果があり虫を寄せつけませんが、他の植物は年によってはアブラムシが発生し、上から油が滴り落ちるので、そんなときは枝ごと伐ります。花の香りに惹かれてクマバチがやってきたり、クチナシにスズメガの幼虫がつくので、申し訳ないけれど退治します。

——雑草などの草抜きはしないのですか。  
**太田** 雑草という植物はないんです。意にそぐわないものや許容度を超えてはびこる



↓幹線道路に接する東面。通りすがりに、中を覗く歩行者も多い。

↑玄関まわり。背の高い樹木に目がいくが、足元にもハーブ類をはじめ、たくさんの種類の植物が。



植物を人間側の都合で雑草と呼んでいるわけ。もちろん繁殖力が強すぎる植物は他を駆逐するので、庭主の統治が必要です。その強弱や方法は自由であり、そのさじ加減が「その庭らしさ」として現れるのだと思います。雑草と思うものを無差別に排除するのではなく、好みでないものや増えすぎたものを抜くという選択的除草もありでしょう。植栽は自然界のものではなく、多かれ少なかれ人の手によりつくられる人工的な環境です。放置すれば、文字どおり野放図な荒れ野に戻ってしまう。人工と自然のバランスを維持していくには、人間の介入は必要でしょう。人間もその庭をつくる環境要素のひとつです。とくに植えたての植物は赤ちゃんのようなもので、ある程度安定的に成長しはじめるとは保護してあげるのが肝要ですね。

**藤野** 竣工時にのべ143種を植えました

が、今は3分の1くらいになっています。

生存競争に勝ち残った植物がテリトリーを広げたり、鳥が落ちていったのか、知らない花が育っていたり。西庭のジューンベリが今年枯れて残念ですが、枯れ木姿の樹形が美しいのでそのままにしています。  
**太田** この建築と植栽、藤野さんとの物語として、それもあってでしょう。植栽の脚本を書いたのは私だけれども、監督は藤野さんです。同じ脚本でも監督が異なれば映画が変わるように、植物のある風景も違ってくる。そこが植栽の醍醐味でしょうか。

**藤野** まさしく建築もそうです。住まい手を見つめることで、設計者の自分もちあわせていないベクトルが生まれる。一瞬垣間見える感情や狂気を汲みとり、設計者の範疇を超えた建築をつくりたい。その手がかりを読みとる眼を、このアトリエは育んでくれます。

——アトリエの将来像を、どのように思い描いていますか。

**藤野** 模型では木々が建物のガラス天井を突き破りあふれ出す未来を表現しましたが、こうなるとほしいという理想はなく、動きつづける物語こそが重要です。もしかしたら、ある植物とは決別するということがあるかもしれません。

ただ、この建物と敷地単体ではなく、草ぼうぼうになっている隣地など周辺も視野に入りたい。南庭のハリエンジュはマメ科で地下茎の力が強く、敷地境界線を越境し、隣地から芽吹いています。地面の下には目に見えないネットワークが張り巡らされ、地上のような境界線はない。そうした生命力と連関したかたちで建築の未来を考えていくのでしょうか。そういう意味では、このアトリエは地方都市の郊外に埋め込まれたひとつの苗床のような場所ですね。

# 01



日暮れ後は窓から室内の光が漏れ、樹形がはっきりと浮かび上がる。

# 平面図



0 1 2m

1/150



## 植えられた植物 (竣工時)

1	ダイアンサス
2	黄金葉ツタ
3	セダム ブラックジャック
4	ガイラルディア アリスタータ バーガンディ
5	アリウム カラタビエンセ
6	カレックス ブロンズカール
7	カンナ ファション
8	オレガノ ノートンズゴールド
9	スキザキリウム ザ・ブルース
10	ベニセタム ルブラム
11	オレガノ ヘレンハウゼン
12	パニカム ルビーリボンズ
13	ガウラ 桃花
14	バーベナ ハスタータ ピンクスバイク
15	サクシセラ フロステッドパールズ
16	アリウム クリストフィ
17	マーレンベルギア カビラリス
18	ジギタリス フェルギネア
19	モナルダ 赤花
20	アカンサス タスマニアエンジェル
21	ゲラニウム マキュラタム エスプレッソ
22	エキナセア ブルブレア
23	カラマグロステイス カールフォスター
24	ユーハトリウム マキュラタム アトロプルプレウム
25	銅葉シラカバ
26	チャイブ
27	パニカム ダラスブルース
28	ベルシカリア ファイアーテイル
29	ベニセタム カーリーローズ
30	ブロンズフェンネル
31	アーティチョーク バイオレットグローブ
32	アリウム パープルセンセーション
33	セダム マトローナ
34	グラジオラス ビザンティヌス
35	クロコスミア ミストラル
36	サルビア カラドンナ
37	アリウム 丹頂
38	ダイアンサス ブラックベアー
39	ガーデンドルー
40	セダム ネオン
41	パープルセージ
42	オレンジバルサムタイム
43	オレガノ ブルガリス
44	ジャーマンカモミール
45	ローマンカモミール
46	オレガノ ヘレンハウゼン
47	ゴールドレモン
48	ジャーマンカモミール

49	ローズマリー
50	ダイアンサス ファイアーウィッチ
51	オレガノ ノートンズゴールド
52	ロサ ルゴサ (ハマナス)
53	オレンジミント
54	ニセアカシア アルドルフ
55	ディセントラ ゴールドハート
56	西洋オダマキブラックバーロー
57	ベルゲニア コルディオリア
58	リナリア カンジェーウエント
59	アスチルベ ファナル
60	ピオラ ラブラドリカ
61	ワレモコウ
62	ミツバシモツケ
63	バラ テレーズブニエ
64	ジューンベリー
65	ワイルドストロベリー ゴールドアレキサンドリア
66	アロニア メラノカルバ
67	ポテンティラ モナークスベルベット
68	ワイルドストロベリー ゴールドアレキサンドリア
69	バラ ロズレー・ドゥ・ライ
70	ゴールドレモンタイム
71	サトウカエデ
72	アルクス ディオイクス
73	銅葉ミツバ
74	ホスタ サムアンドサブスタンス
75	ツワブキ シシボタン
76	コゴミ
77	ハラン アクボノ
78	ヤマゴケ
79	トクサ
80	ハイゴケ
81	コゴミ
82	ヤマゴケ
83	ハイゴケ
84	シラン
85	ゼンマイ
86	ハイゴケ
87	ケファラリア キガンティア
88	ブラックレースフラワー
89	エゾクガイソウ
90	イヌラ ヘレニウム
91	キバナカラマツソウ
92	ブロンズフェンネル
93	ガイラルディア アリスタータ バーガンディ
94	パニカム ルビーリボンズ
95	カラスバニガナ

96	アガスターシェ ゴールデンジュビリー
97	フロミス ルッセリアナ
98	オリエンタルポピー プリリアント
99	オレガノ オウレウム クリズム
100	フォブシス ステイロサ
101	エラグロステイス エリオッティ
102	ユーハトリウム リトルレド
103	アルテミア ポウイズキャッスル
104	パニカム デューイブルー
105	シモツケ ライムマウンド
106	サルビア クラベランディ
107	セントランサス コッキネア
108	ホルデウム ユバツム
109	モナルダ 赤花
110	ダイアンサス ブラックベアー
111	アガスターシェ ボレロ
112	ルプス サンシャインフレッダー
113	サッカラム パープルビーブルグリーター
114	オリエンタルポピー ロイヤルウェディング
115	ユーハトリウム フィストロスム
116	エキナセア ブルブレア
117	カラマグロステイス カールフォスター
118	ガウラ 桃花
119	オミナエシ
120	パプティシア パープルスモーク
121	セダム マエストロ
122	エリンギウム シルバーサレンティノ
123	プティロステモン アファー
124	ユーフォルビア ダルシス カメレオン
125	ユーフォルビア ミルシニテス
126	インディゴフェラ リトルピンク
127	ダイアンサス
128	八重クちなシ
129	オレガノ オウレウム クリズム
130	ペラルゴニウム シドイデス
131	レモングラス
132	メラレウカ レポリューションゴールド
133	コモニタイム
134	レモンバーベナ
135	ジャズミン フィオナサンライズ
136	オレンジマートル
137	オリーブ
138	アマリリス レッドライオン
139	ジャカランダ ミモシフォリア
140	レモンユーカリ
141	斑入ドワーフマートル
142	カンナ オーストラリア
143	ホスタ ブルーマンモス

# 天神山の アトリエ



## 建築概要

所在地	群馬県高崎市
主要用途	事務所、住居
設計	生物建築舎
構造設計	ASA
構造	RC造
施工	建築舎四季
階数	地上1階
敷地面積	177.18㎡
建築面積	61.93㎡
延床面積	61.93㎡
設計期間	2007年07月～2010年01月
工事期間	2010年01月～2011年01月
造園計画・施工	ACID NATURE 乙庭

## おもな外部仕上げ

屋根	強化ガラス 飛散防止フィルム貼り
外壁	鉄筋コンクリート打放しのうえ シラン系撥水材
開口部	ガラス、アルミサッシ、 StサッシStドアのうえ ヒノキ板張り

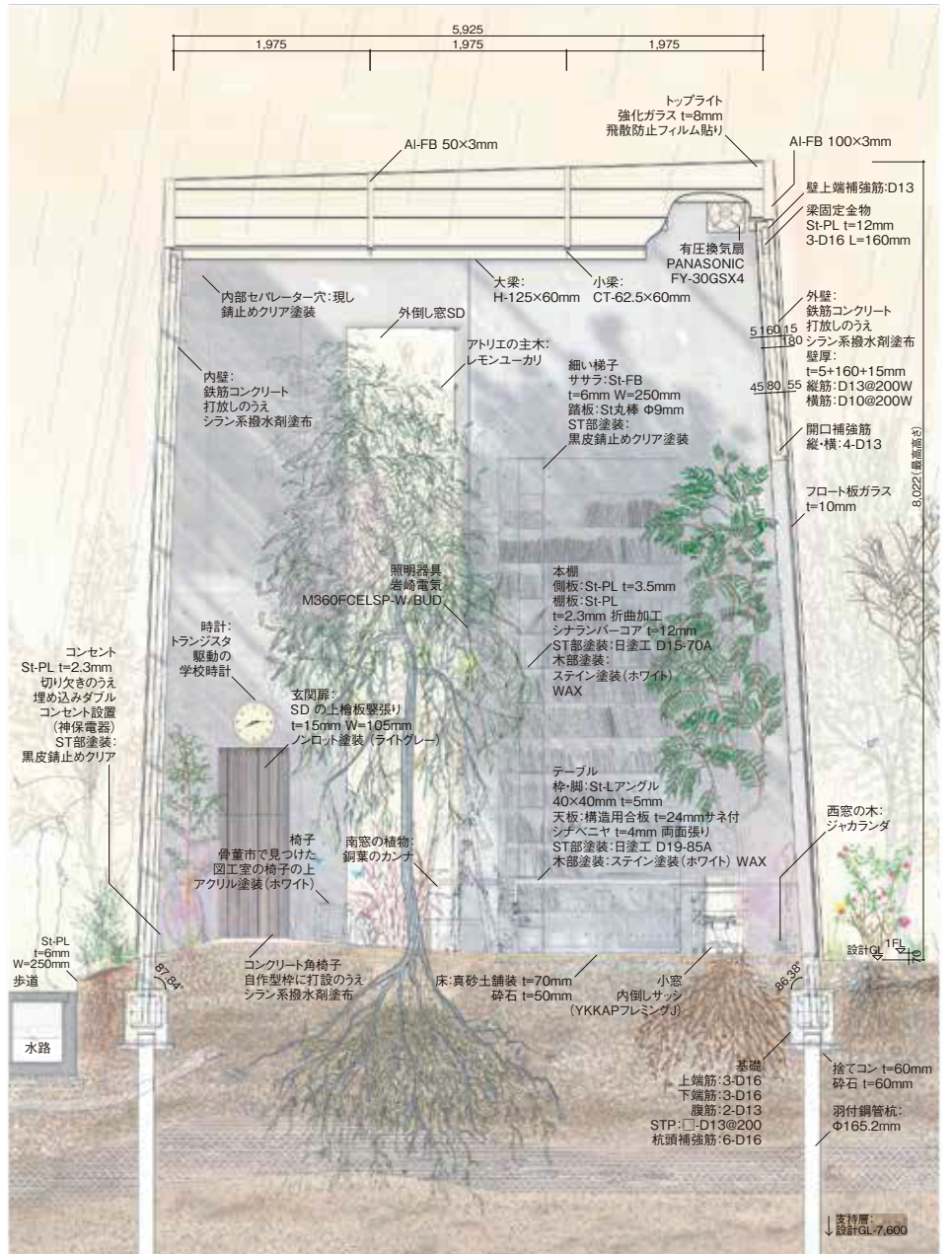
## おもな内部仕上げ

アトリエ	
床	真砂土舗装
壁	鉄筋コンクリート打放しのうえ シラン系撥水材
天井	強化ガラス 飛散防止フィルム貼り
住居	
床	3寸角ベイマツ敷き+真砂土
壁	鉄筋コンクリート打放しのうえ シラン系撥水材
天井	強化ガラス 飛散防止フィルム貼り

## 断面図

0 0.5 1m

1/75



## 植栽家

Ota Atsuo



太田敦雄

動画をご覧  
いただけます。



おおた・あつお／1970年群馬県生まれ。93年立教大学経済学部卒業。01年前橋工科大学工学部建築学科卒業。趣味で楽しんでいた自宅の植栽が注目され、11年松島哲雄とACID NATURE 乙庭設立。おもな造園作品＝「安中の家」(18)、「6つの小さな離れの家」(20)、「鶴岡邸」(21) など。

## 建築家

Fujino Takashi



藤野高志

ふじの・たかし／1975年群馬県生まれ。98年東北大学工学部建築学科卒業。00年東北大学大学院都市・建築学博士前期課程修了。00～05年はりゅうウッドスタジオ勤務。06年生物建築舎設立。おもな作品＝「貝沢の家」(15)、「広野こども園」(19)、「ケーブルカー」(20) など。



Special Feature  
The Fusion of  
Greenery  
and  
Architecture  
Case Study

# 02



Hirata Akihisa

Tsukada Yuichi

竣工後から、木々が南面に大きく迫り出すように順調に成長。モザイク状のファサードとともに、周囲の景観に穏やかに彩りを与える。

# 自然と街の記憶が宿るよりしろ



3軒の専用庭付き住宅を積みあげた「Overlap House」。  
 建築がつくり出す地形や環境を  
 よりしるに、街の記憶が重なり、  
 多様な植物が根づき枝葉を伸ばし  
 さらなる新しい景観が生み出されていく。

取材・文／杉前政樹 写真／川辺明伸

ケーススタディ2

## 植物×集合住宅 Overlap House

作品

設計

植栽

平田晃久  
塚田有一

平田晃久建築設計事務所

温室

写真／阿野太一



竣工 2018/6

現在  
2021/8

# 街の雑多さを肯定的に取り込む

「Overlap House」は、どのようなコンセプトで設計されたのでしょうか。

平田晃久 オーナーは長らく南大塚にお住まいで、ご近所の家は庭木が多いので、なるべく緑を提供するような建物にしてほしい、それ以外はほとんど何も注文されませんでした。本当にそれだけでいいんですかと戸惑いつつも、その期待に応えるべく考えたなかで出てきたのが、庭付き一軒家を地面ごと3つ積み重ねたような集合住宅、という案でした。近隣にはちよつとした庭をもっている戸建てがまだ結構残っているのですが、外にも広がりを感じられるような建物にできればと思いました。というのも、この周辺は街の雑多な要素が適度に混じりあっていて、なんとも居心地がいいんです。そのよさをシャットアウトして、敷地内だけで美しく完結するのではなく、外の要素が入ってきてもらっていいんじゃないか、むしろ家の中に広がりをもたせたいという家にはできないか、ということを目指しました。

平田 もともと賃貸アパートがありました。容積率をいっぱい使えばもっと床面積は確保できるのですが、オーナーは、自分たちの住む街をよくしていこう、隣地に住んでいて気持ちいい状態を優先しようというお考え。通常はデイベロツパー経由で設計依頼が入るのですが、オーナーは雑誌とかで僕らの設計を知って、直接いらっしゃ

ました。植物がたくさん植わっている作品を見たのでお願いしたいという純粋な思いからスタートしたプロジェクトでしたので、経済的な妥協や調整を抜きにして、根本的なところでうまくいったと思います。

——造園家の塚田有さんと協働しようとお考えになったのはどの時点ですか。

平田 塚田さんとは、大塚で「Tree-ness House」(17)を一緒に手がけていたので、設計依頼が来たときから一緒にやりたいと思っていました。

塚田有一 最初に模型を見たとき、屋根の下になる部分の植栽は制約が多いので、まずはそこをどうクリ

アするかが課題だと思いました。勾配のきつい箇所もあり、どうやって土が流れないようにするか、

技術的な工夫も必要でしたね。周囲の自然の地形を敷地内に引き込もうという設

計なので、それならば全体をひとつの山とか丘に見立てて、東京という都市らしい、雑多な植物が組み合わされたシーンがつけられるのではないかと考えました。

平田 構造的にいうと、平面は柱間2・7mのグリッドで規則正しく鉄骨を組んでいて、高さ方向の梁は上げたり下げたり自在に調整できるようになっています。これらを組み合わせることで、敷地内で一層分ぐらいの高低差がある自然の地形を生かし、そのまま地面がせりあがって、ぐるっと螺旋を描いて3階まで上っていくようなボリ



Hirata Akihisa

ュームをつくりました。その隙間の植栽計画を塚田さんにお願したのですが、かなり自由に「お任せ」しました。それはこれまでの設計にはない貴重な体験でしたね。塚田 下階の屋根が上階の地面となって、地形がオーバーラップしているような建物でしたので、それぞれの場所の特性に合った植物を覆い重ねていくことを考えました。植物には、放射状に広がるもの、垂直に伸びるもの、枝垂れていくもの、さまざまなタイプがありますので、建物の「地形」に合った多様な植物をオーバーラップさせていったのです。

## 平田晃久

建築家

床面積以上に、植物と建築が織りなす環境が評価される時代がくるかもしれません。

## 環境を読み解きながら植物を配置する

——平田さんは自身の建築について、「からまりしろ」という言葉をよく使われていますよね。

平田 建築は人工物ではありますが、たとえば飛行機の上から街並みを見ると、自然の地形のように見えなくもない。屋根は雨水が流れるようにデザインされた造形だか



3

1F

1階南面。トキワマンサクや朴の木、ジュンペリ一等など高さのある樹木と、シダなどの下草が組み合わせる。屋根の下はおもに観葉植物。



2

2F

3階へ向かう階段からGardenBを見る。高低差があるのさまざまな背丈の植物が思い思いに成長し、さらに立体感を出す。



1

2F

GardenB。テーマは林道の庭。主木にはツリバナ。雨のあたる日陰にはシダ植物、雨のかかる明るい緑には落葉性の花木。





4

1F

どこか浮遊感のあるエントランスのドア。貼られたミラーが植物を映して、さらに緑の印象を増している。

# 02



ら、その集合体もまた、水の流れによって削られた大地と共通するものがあるわけです。ならば建築は人間主体でつくられてきたという考えをいったんやめて、生態系の一部として建築を考えるとどうなるのか、というのが僕の建築のテーマなのです。そこで出てきたのが「からまりしろ」という考え方。海底に岩があつて、岩に海藻がからまって、そこに魚が卵を産みつけて、それを目当てに別の魚が寄ってくる。こうした自然界の仕組みのように建築を考えたときに、たとえば「Tree-ness House」の場合にはコンクリートの箱が岩で、ところどころに窓を穿って襞ひだのようにペランダをからませ、そこに植物がからまっていく。その選定を塚田さんにお願したわけです。

塚田 平田さんが「襞」と呼んでいるプラントボックスは、それぞれ日照や通風条件が違いますから、それに合わせて何を植えるかをポイント的に選ぶ、というのが「Tree-ness House」の仕事でしたが、今回は連続して傾斜する地面にどのような分布で植栽を配置するかを全体的に考えるプロジェクト。植物は気持ちのいい場所に育つので、日当たりの悪いところはあえて何も植えずに砂利にしてみましょうという選択もしました。



Tsukada Yuichi

平田 僕は建築の人間ですから、どうしても建築のコンセプトから考えてしまえば3階の庭を僕がくついたら、なだらかに傾斜した地形をそのまま、全面的に植栽にしてしまうと思うのですが、塚田さんは庭を区切って少し段差をつけて、平らな部分をテラスにしてテーブルセットを出せるようにしています。塚田さんは完全に植物の気持ちになっ

## 塚田有一

造園家

本来の「ホーム」を  
考えることは、  
自然との共生のしかたを  
考えることと同義です。

の気持ちになっ

塚田 1階は、周囲の住宅の庭木との連続性をもたせつつ、屋根のついた半室内のような環境ですので、インドゴムの木とか、モンステラなどの観葉植物をまるで水族館のように密集させて植えています。東京は冬は庇さえあれば、多少の養生により南性の植物でも越冬できる。2階の吹抜けは陽当たりがそれほどよくないので落葉樹を多めに植えて、四季の移り変わりを楽しむとともに、冬に日差しがたっぷり入るよう

に工夫しました。そして3階のテーマは山頂の庭。小さな芝の丘にティーツリー（メラレウカ）を。下からの見上げを意識して、日差しや乾燥に強い植物を植え、テラスにはローズマリーやマートル（銀梅花）のような香りのよい植物を選んでいきます。

——これだけの庭ですと、水やりするのも大変ですね。

平田 オナーが「水やりができる方」という条件で入居募集をしてくださったおかげで、とても良好な状態を保っています。それだけでなく、この建物は雨水を壁伝いに這わせて樋に集めて、チェーンで下階に落として自動的に水やりできる仕掛けを内蔵しています。ですから同じ階の庭でも、



↑ 6

### 3F

3階入口前の斜面には、アロエやエケベリアなどの多肉植物やユッカが植えられ、異国のような空間に。

← 7

### 2F-3F

斜面の部分は土砂が流れないよう割くり石が積みまれ、隙間からシダ類や多肉植物が生育している。

→ 5

### 2F-3F

雨水は樋で集められ、写真のチェーンを伝って、屋根下の植物にも行き届くように工夫されている。

雨水が落ちて湿潤なゾーンと、そこから離れて乾燥しがちなゾーンがあって、塚田さんにはそれに合わせて植栽プランをしてもらっています。

塚田 山のなかに谷間の水路や尾根沿いの乾いた地面があるのと同じで、これもひとつの自然条件ですね。さらにいうと、「Overlap House」は壁面の色の組み合わせが場所によって異なるので、その背景の色に合わせて何を植えるのかを考えるのも楽しい作業でした。

平田 この建物のポリウムを決めた当初は、スチレンボードの白い模様のイメージを進めていたのですが、このままの白い建築にしていると、周囲の環境から明らかに浮いてしまうと思っただけですね。そこで周辺の建物の壁や植栽を写真でサンプリングして色の割合を計算し、それぞれの壁面の背後に広がる色の比率に合わせてスレート壁の色彩パターンを変えて貼っているのです。それはもう、このスケールの集合住宅に、どれだけ時間をかけているんだという熱意で……まったく赤字にかなりませんが(笑)。

塚田 基本的には壁の色が決まってから植物を選んでいきます。花も葉も茎もひとときとして同じ色がなく、壁のパネルの色が豊かなぶん、ニュアンスも複雑に見える気がします。

平田 「Tree-ness House」の場合は、コングリートと植物が「物質的に」からまりあうということがテーマでしたが、今回はそこからさらに拡張して、街のいろいろな記憶や意識レベルでの「からまりしろ」になるもの考えたかった。現に、竣工時には東隣にサウナ湯があり、その建物のレンガ色やコインランドリーのビニール庇の緑色が壁面の比率にサンプリングされていますが、サウナ湯はもう壊されて存在しません。こうした「すでになくなってしまった街並み」の記憶も受け入れています。

## 自然と 触れながら 暮らすことの 豊かさを見直す

——竣工から3年が経って、どのような変化をお感じになっていますか。

塚田 想像以上におもしろくなっていますね。サウナ湯がなくなっただけで1階の庭は格段に陽当たりがよくなっていて、インドゴムの木がものすごい勢いで成長してい



↑  
8  
3F

無理に植栽を施すのではなく、砂利やタイルを敷き、深く「植えない」造園で、暮らしと共存させる。

ますし、3階の庭のシンボルツリーに植えたメラレウカよりも周りの木が旺盛に育ち、視線をさえぎる役割もしています。

平田 植物って本当にすごい。僕も含めて大抵の建築家はコントロールフェチですが、つい全部つくり込んでしまおうとしが

あって、最近、「ホーム」って何だろうとあらためて考えてみたんですね。もちろん家もホームですし、自分の精神的内面とか、地球のこととか、どれも「ホーム」が意味するものですよ。でも本来的にはラテン語の「フムス」、土とか大地の意味から来ていて、「ヒューマン」もやはりフムスから派生しているそうです。つまり土や深層への意識、微生物や見えないものへの想像力をはたらかせ、自然の中でどう暮らすかを考えること。それこそ、人間中心な建築や都市のあり方をいっかげん変えていかないと。大地や海を汚すことは、心や身体も壊すことではないでしょうか。

平田 この集合住宅は、不動産価値的にいうと、床面積が60〜70平米の賃貸住宅というスペックでしかカウントされないのが現状です。でもおそらく将来的には、庭の豊かさが家賃にも反映される時代が来るのではないかと思えますね。

塚田 この建物には年に5回、メンテナンスに通ってオーナーや住人の方と直接お話ししていますが、植物の名前を聞かれたり水やりは足りているかと相談されたりします。ステイホームで自宅にいる期間が、人間は自然の中にいる、ということをおあらためて考えなおす機会になっていくといいですね。じつは、庭はつながりを感じるための装置でもあるのです。



3階GardenCのテーマは「山頂の庭」。中央の主木はメラレウカ。

10 ↓ **3F**

↑ 9 **3F**

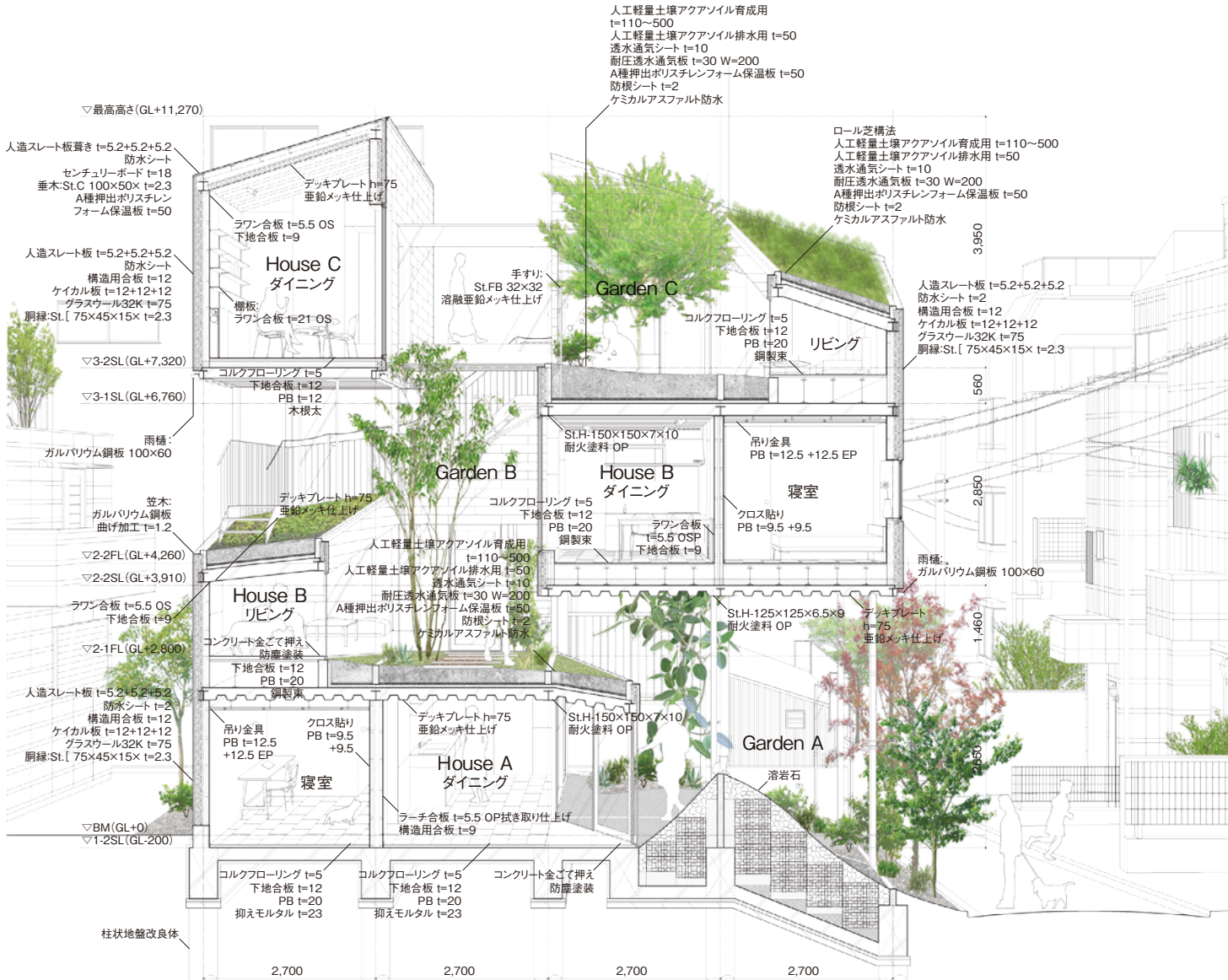
2階と異なり、日当たりのよい3階の庭には、乾燥や日差しに強い植物を選んでいる。



# 断面図

0 0.5 1m

1/100



造園家 Tsukada Yuichi



塚田有一

つかだ・ゆういち / 1968年長野県生まれ。91年立教大学経営学部卒業。草月流家元アトリエ、イデー勤務を経て、05年温室設立。花活けやイベントのディスプレイのほか、個人邸の造園やオフィスなどのグリーンデザインを多数手がける。おもな造園作品=「Tree-ness House」(17)、「鷺沼GREEN BASKET」(20)など。

建築家 Hirata Akihisa



平田晃久

ひらた・あきひさ / 1971年大阪府生まれ。94年京都大学工学部建築学科卒業。97年同大学院工学研究科建築学専攻修士課程修了。97~05年伊東豊雄建築設計事務所勤務。05年平田晃久建築設計事務所設立。おもな作品=「樹屋本店」(06)、「Tree-ness House」(17)、「太田市美術館・図書館」(17)など。

# Overlap House



## 建築概要

所在地 東京都豊島区  
主要用途 長屋(賃貸住宅)

設計 平田晃久建築設計事務所  
構造設計 オーク構造設計  
構造 鉄骨造  
施工 大原工務所  
階数 地上3階  
敷地面積 117.08㎡  
建築面積 88.25㎡  
延床面積 177.49㎡  
設計期間 2016年02月~2017年06月  
工事期間 2017年06月~2018年06月  
造園計画 温室  
造園施工 イケガミ

## おもな外部仕上げ

屋根 人造スレート材、人工軽量土壌  
外壁 人造スレート材  
開口部 スチールサッシ、アルミサッシ

## おもな内部仕上げ

1階  
床 コルクフローリング  
壁 ラーチ合板のうえ水性塗料白塗装拭き取り仕上げ  
天井 デッキプレート現し  
2階  
床 コルクフローリング  
壁 ラワン合板 着色オイル塗装  
天井 デッキプレート現し  
3階  
床 コルクフローリング  
壁 ラワン合板 着色オイル塗装  
天井 デッキプレート現し

## 平面図



植栽は、今では建物を  
超える高さまで成長した。  
荻野さんが植えたものに  
加えて、風で種が運ばれて  
自生した野草もなじん  
でいる。



Special Feature  
The Fusion of  
Greenery  
and  
Architecture  
Case Study

03



植物との共生にリアルに向き合う



## 植物×住宅

作品 森のすみか

設計 前田圭介

UID

植栽 荻野寿也

荻野景観設計



竣工 2010/11

「木を植えるというのは、覚悟をしてもらうこと」。  
植物との共生は、想像以上に大変なことでもある。  
その先に、植物と人間はどのような関係を  
結ぶことができるだろうか。

取材・文/橋本 純 写真/桑田瑞穂

現在  
**2021/8**



Ogino Toshiya

Maeda Keisuke

## 自然に近い場所で どのようにか 家をつくるか

——「森のすみか」とはどのような住宅ですか。

前田圭介 施主である母と娘ふたりの女性3人が猫と住む家です。敷地の真ん中に生えていた2本の栗の木を伐らずに取り囲むコートハウスのようなプランとし、南側にLDKを、テラスを挟んだ北側に個室を配置しています。女性3人なので、つかず離れず身近に気配が感じられるような距離感が望まれていました。

生物のすみかにウチとソトという概念はありませんが、安定した場所があります。そういうつくり方を人間の住まいでもできるといいなと思いました。そこで、コンクリートスラブがテーブルになったり床になったりベンチにもなるような、建築が人間の生活行為をアフォードするようにつくれば、自然のありように近いすみかになるのではないかと考えて提案した住宅です。——前田さんはいつ頃から建築と植物の融合を意識するようになったのですか。

前田 大学を出て5年ほど現場監督をやっていたのですが、そこで造園工事にとってもくわしい職人さんに出会って親しくなり、独立後もその方にアドバイスをもらって、「内海の家(03)では50種類くらいの木を植えました。植物はただ眺めるためだけではなく、さまざまな建築とのかかわりあい方があることをあらためて学びました。

——荻野さんはもともと造園設計ではなかったそうですね。

荻野寿也 高校を卒業後、修業でゼネコンの現場監督として6年ほど勤めて実家の建材屋に戻りました。修業先での経験

から将来は造園の仕事をしたいと思い、社内「緑化部」をつくりました。当時、得意先のゴルフ場にバンカーの砂などを納品していたのですが、そのゴルフ場の改造工事を請け負うことになり、そのグリーンキーパーの方の指導を仰ぎながら木の移植からグリーン造形までさまざまなことを経験させてもらいました。そのキーパーの

Maeda Keisuke



建築家

### 前田圭介

日本の建築ならではの自然との寄り添い方を、これからも考えていきたいと思っています。

方とは日々一緒に仕事をし、海外の有名なゴルフ場の視察にも同行したのですが、向こうのゴルフ場はナチュラル志向でつくった感じが無い。その造園のあり方に共感し、僕の仕事の原点となりました。前田さんとは、「アトリエ・ビスクドール(09)の際にお声がけいただき、それ以来12

年の付き合いになります。

——前田さんは、設計の早い段階から荻野さんに相談をされるそうですね。

前田 プロジェクトにもよりますが、スタディの初期段階から相談をさせてもらうこともありますし、設計を始める前に敷地を見てもらい、ここで何ができるだろうか、といったディスカッションに入ってもらった

て、建築の発想につながるアイデアをいただくこともあります。

——「森のすみか」では敷地中央の栗の木を取り込む計画でしたね。

荻野 僕が相談を受けたときはもう栗の木はありませんでした(笑)。

前田 そうなんです。栗の木を残しながら設計をしていたのですが、施主から「栗の木はにおいもきついし、毬栗もたくさん落ちるからちよっと」と言われ、やむなく伐ることにしました。ただ、残すものをよりどころにプランが生まれたという意味では、土地の記憶は継承できたと思っています。でも、栗の木のリアリティに負けたくやしさはありますよ(笑)。

## 植物と暮らすには 覚悟が必要

——「森のすみか」の植栽設計についてお聞かせください。

荻野 中庭には2種類の木を植えています。ひとつはヤマボウシで、成長が遅くコントロールしやすい木です。もうひとつはヤマモミジでこちらは成長が早い。その組み合わせで考えました。当初、中庭の木は屋根



↓中央の引き戸を右手の戸袋にしまうことで、半屋外のテラスと、リビング・ダイニングの空間が一体になる。

↑地下のアプローチから、テラスの屋根を突き抜けて成長した主木を見上げる萩野さんと前田さん。



より低く納まる予定で、突き抜けるというのは前田さんのプランにはなかった。でも、僕はその樹木が建物の屋根を貫通して日傘となったほうがよいと提案しました。

——野生が建築を突き抜けていく。1970年の大阪万博で、おまつり広場を太陽の塔が突き抜けていったことを思い出します。一同(笑)。

荻野 僕の一貫したテーマは、「原風景の再生」です。切り拓かれた土地を元の姿に戻していきたいという想いがいつもあります。——メンテナンスについてのかかわり方を教えてください。

荻野 メンテナンスに手間がかからないことが僕たちの基本的な考えですが、ノーメンテにはできませんから、ワークシヨップと称して施主と一緒に植え込みをやっています。そこで水やりや剪定のしかたなどをお伝えします。引き渡し時には「プランツリスト」を作成してお渡ししています。そうした手引きをすると、みなさんやってくれます。そこは一番大事なところかなと思います。そこは一番大事なところかなと思っています。ただ、幹や太い枝を伐るような大きな手入れのときだけは僕らを呼んでくださいとお願ひしています。

——竣工から10年が経って、現在の様子を見て、植栽についての考え方を振り返っていかがですか。

荻野 植え足してもらったものも、こぼれ種から生えてきたものの残し加減もいい感じになっている。僕たちが植えていないものがボンボン生えている。もっと言ってしまえば、荒れ加減もすごくいい感じで、原風景が再生されているという印象です。

前田 荻野さんはある程度の熟成感をもって庭を仕上げてくださるので、竣工直後でも品がいい感じにはなります。10年経ってみて、施主がいろいろな場所を工夫しながら住み、植物が熟しているのを見て、設計を超えた姿がすごくいいなと感じています。

——植物と融合するということは、リアルな動物や昆虫とも同時に生きることの意味します。それを施主にはどのように理解してもらっていますか。

荻野 セミの鳴き声を聞くと、うるさいと思う人と夏だなあと感じる人がいます。同じ虫でもリアルな受けとめ方はいろいろです。なので、いろいろなことが起きますよと最初の段階で話します。木を植えるというのは、覚悟をしてもらうことなんです。でも、それも植物と生きるとき

の楽しい部分なんです。そして、そういう部分こそ良質な情操教育にもなるのではないのでしょうか。

前田 僕も、植物が日々の暮らしをいかに豊かなものにしてくれるか、ただのインテリアとしてではなく生きているものとして付き合っしてほしい、と話します。子どもと同じように、育てるといふ感覚をもつてもらえるとうれしいですね。

以前に「町Building」(II)の施主から電話をもらって、なにごとかと思ったら「前田さん、ツツジを枯らしてしまっただけ」とい



Oginu Toshiya

## 建築と自然は共生できるのか

——そもそも建築物は自然環境から人間を守るためのものだといえますが、自然であ

う。もともとそういう人ではなかったので、変わったなあと改めて訪ねたら、もうすっかりお子さんと植物を育てる姿になっていた。それってやはり建築ではできないこと

### 荻野寿也

造園家

切り拓いた土地でもそれが原風景に近づいていくような造園が、私の理想です。

る植物と共生するということは、その定義と相反します。しかし現代のストレス社会では、人間が入れた植物に救済されるという状況です。人間生活のなかに植物はどれくらい入り込んできてもよいものなのでしょうか。

前田 建築は確かに外部環境からのプロテクトを念頭につくられてきたと思いますし、欧米ではとくにその感覚が強いです。一方でアジアや日本では自然と適度に寄り添って生活してきた文化があります。です

から、日本の建築ならではの自然との寄り添い方について考えていくべきだと思います。

自然を五感で感じることはとても大切だと思うのですが、一方で人間の側の受容能力が劣化しているようにも感じます。この先、人間を人間たらしめるような状態にするという意味では、やはり五感で感じて思考していくということがますます重要になるのではないのでしょうか。なので、建築を通して環境をつくっていくうえでランドスケープはもはや切り離せない存在なのです。荻野 最近、若い人たちのあいだでひとりキャンプなどのアウトドアがはやっているでしょう。山のなかでテントを張ってひとりでキャンプをして、暑くても寒くても、それが楽しくてしようがないと言っている。もうすでに緑のある環境に戻ってきてきているような気がしています。

——建物の中にまで緑が入ってくる理由ってなんなんだろうと考えていたんですが、劣化しつつある現代人の五感を再生させるうえで他者である植物とのかかわりは重要であり、それゆえに建築と植物の融合が求められ、植物が家の中にまで入り込んできているんですね。

一方で、植物にとつての理想状態である「極相」と建築は幸せな関係を取り結べるのでしょうか。

荻野 軽井沢にある吉村順三さんの山荘はカラマツ林のなかにあります。カラマツはすでに十分に成長して足元は暗く、雑草が生えにくい。そこに何本かのモミジを足していますが、今ではもう植えた感じが

# 03

まったくくない。冬場は落ち葉のカーペットになってやがて自然に還る。安定した環境になっている。それを極相と呼んでいいかはわかりませんが、そういう姿が僕の目指す造園です。

森林では雑草は少なく、そこに自生できるものだけが落ち着いた状態を形成します。なので僕は、木を植えるより、本当は森の中に建築を運んでいって落とし込みたいんです。

——電力は再生可能エネルギーでまかない、水は井戸水、排水は浄化槽で済ませられれば、安定した森の環境のなかに人々が住み替えていくということもありえる。それならば、未来の住宅地計画が構想できそうです。

すね。 荻野 ちやくちやりたいですね。リュース・バラガンが溶岩地帯を住宅地に変えたようなことを、前田さんと森でやりたいですね。



アプローチのグラウンドカバーには、シダやコケ類など、耐陰性のある植物が植えられている。

テラスの主木であるヤマボウシとヤマモミジ。日の光が降り注ぐと、葉脈まで透き通って見える。

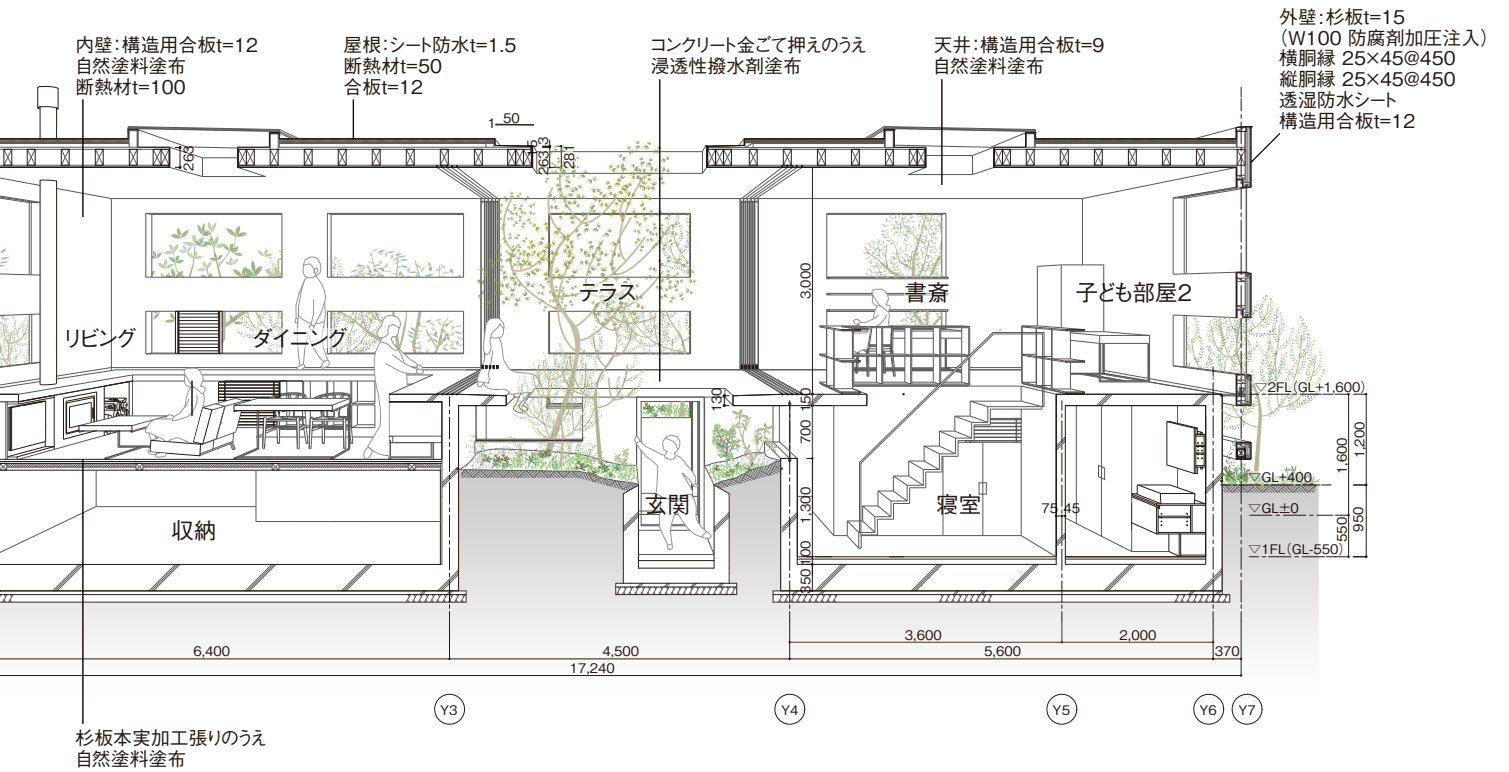
キッチン・ダイニングでは、流しや作業台のコンクリートスラブが、テラス側では床になる。



# 断面図

0 0.5 1m

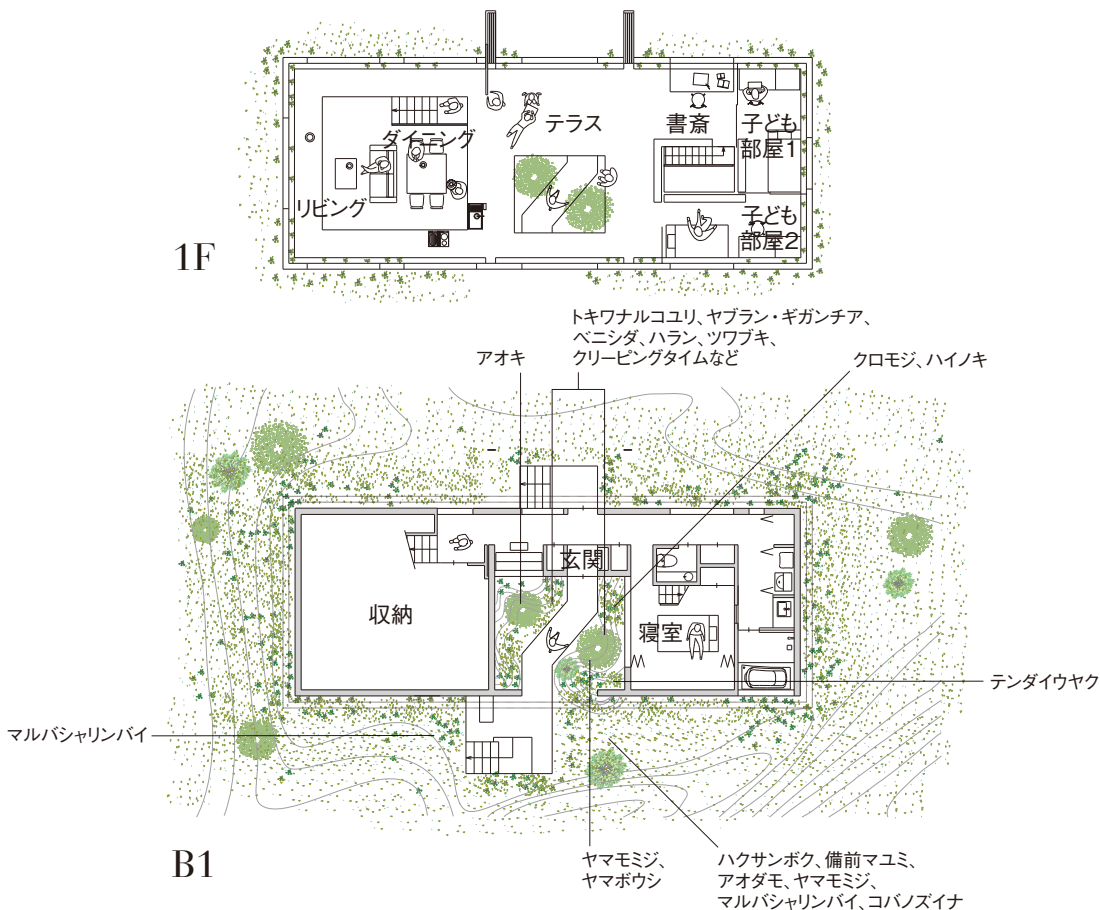
1/100



# 平面図

0 2 4m

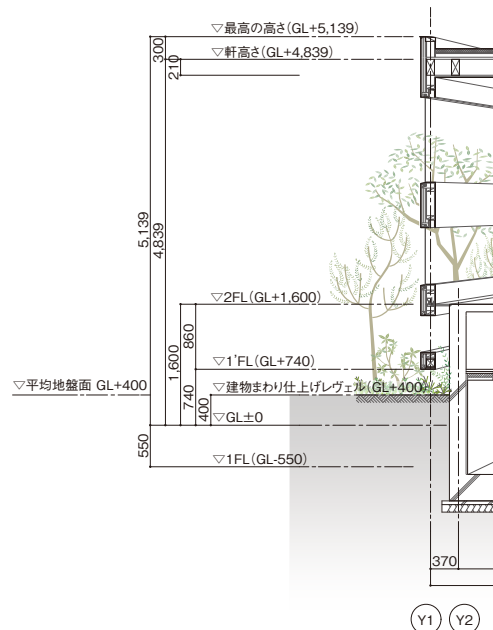
1/250



# 森の すみか



マルバシャリンバイなど手前の植栽たちと建築のみにとどまらず、背後に広がる山々の自然とも融合している。



## 建築概要

所在地	広島県尾道市
主要用途	専用住居
設計	UID
構造設計	小西泰孝建築構造設計
構造	木造一部RC造
施工	ホーム
階数	地下1階 地上1階
敷地面積	362.00㎡
建築面積	89.25㎡
延床面積	124.52㎡
設計期間	2008年09月～2010年02月
工事期間	2010年03月～2010年11月
造園計画・施工	萩野景観設計

## おもな外部仕上げ

屋根	シート防水 断熱工法
外壁	スギ板(貫板 上小節本実加工) 防腐剤加圧注入材)素地張り
開口部	木製建具、アルミサッシ

## おもな内部仕上げ

LDK	
床	スギ板(本実加工)のうえ 木材保護塗料塗布
壁	針葉樹構造用合板のうえ 木材保護塗料塗布
天井	針葉樹構造用合板のうえ 木材保護塗料塗布
寝室	
床	スギ板(本実加工)のうえ 木材保護塗料塗布
壁	化粧型枠鉄筋 コンクリート打放し
天井	化粧型枠鉄筋 コンクリート打放し

造園家 Ogino Toshiya



萩野寿也

おきの・としや／1960年大阪府生まれ。89年家業の萩野建材に入社、緑化部を設立。独学で造園を学ぶ。06年萩野寿也景観設計(現・萩野景観設計)設立。原風景再生をテーマに造園設計・施工を手がける。おもな造園作品=「アトリエ・ビスクドール」(09)、「下田の家」(12)、「三井ガーデンホテル京都新町別邸」(15)など。

建築家 Maeda Keisuke



前田圭介

まえだ・けいすけ／1974年広島県生まれ。98年国土館大学工学部建築学科卒業。工務店での現場監督経験を経て、03年UID設立。おもな作品=「アトリエ・ビスクドール」(09)、「後山山荘」(13)、「群峰の森」(14)など。



Special Feature  
The Fusion of  
Greenery  
and  
Architecture  
Case Study

04



東南を見る。竣工からわずか2年とは思えないほどに植物たちは成長し、建築とともに地域の景観の一部となった。

造園を通して地域とオフィスをつなぐ



提供/kwhgアーキテツ

## 植物×オフィスビル

作品	LIGUNA/0
設計	川原田康子+比嘉武彦 kwhgアーキテツ
植栽	湊 真人 耕水



竣工 2019/11

現在  
**2021/8**



植物由来のスキンケアメーカーのオフィスビル「LIGUNA/0」。木や森を意味するというLIGUNAの言葉どおり、地域に根つき、植物を介したコミュニケーションをこの地に生み出しつつある。

取材・文/本橋 仁 写真/傍島利浩



Minato Masahito

Kawaharada Yasuko

Higa Takehiko

## 内から外への 循環を意識して

——この「LIGUNA/0」の「0」にはどのような意味が込められているのでしょうか。

**比嘉武彦** LIGUNAは化粧品を扱うメーカーです。「LIGUNA/0」はその本社で、建築名についた「0」はスタートの意味をもっています。また1階に誰もが利用できるレストラン(社員食堂)、2階に「香りの図書館」というライブラリー、さらに3階にコワーキングスペースがあります。そうしたことからわかるとおり、化粧品にとどまらず、いろんなものを巻き込んでいく企業です。

**川原田康子** 前に代表の方とは、ここをきっかけに「LIGUNA/1、2」と展開していけるとおもしろいよね、と話していました。また別の地域に展開するのではなく、この東小金井の狭い地域にポツポツと立ち並ぶのがいいね、と。ちょうど街に木が生えていくイメージです。

**比嘉** この建築はプロポーザルから始まりました。最初に要求されていた機能から、今はずいぶん変わっています。設計では苦労しましたが、そうした変化も許容する会社です。製品もぜんぶ植物由来ですから、会社がもう植物なのかもしれません(笑)。

——特徴は、なんといっても外壁から入る植物ですよ。このイメージはどこから

来たのでしょうか。

**比嘉** LIGUNAの代表に、今一番好きな本は何かと尋ねたんです。そうしたら手塚治虫の『ブツダ』だと。そこでブツダが悟りを開いた「ビッパラの木」の話で盛り上がりました。

ブツダがその巨木の足元で瞑想に入る、あの有名なシーンでは、鳥や虫までもが集まってきます。それがインスピレーションとなりました。

じつは最初の提案では、今階段室となっている真ん中の空間が中庭で、ここに巨木が生えているイメージでした。木の枝が外に張り出して、それが建物全体を包むイメージです。内側から外側に、循環する流れを意識していました。**川原田** 案は変わりましたが、流れの意識は変わっていません。最終的には中心を螺旋階段がまわっています。これは木のメタファーが残っているように思えます。また、この周辺は小金井(黄金井)という地名からもわかるとおり、地下水が豊富です。そこで地下水も使おうということになりました。年中一定した地下水の熱を冷気に変

Kawaharada Yasuko



建築家  
**川原田康子**

この建築自体も植物に見えるような、植物との親和性を考えています。

Higa Takahiko



建築家  
**比嘉武彦**

庭をもつことで生まれる寛容さのようなものが、今社会にも求められていると思います。

換し、階段室の輻射パネルから放出します。さらにその水を屋上に溜め、植物の散水に使う。また、階段室に設けられた空調の吹き出し口にはアロマが置け、香りのついた空気が建築を満たします。水や空気、それ人が真ん中から外へと循環しています。

### 植えてみなければ わからない

——造園家の湊真人さんとの協働は、どのように始まったのでしょうか。  
**比嘉** プロポーザルが終わった後、協働し

ていただける方を探しました。じつは、湊さんとはそれまでお仕事を一緒にしたことはありません。植物を使うといってもオシヤレなものではなく、つねに流動していてワイルドなイメージをもっていました。そのとき、川原田が住宅雑誌で湊さんの仕事を見つけたんです。

**川原田** じつはお願いする前に湊さんの事務所をネット地図で見ました。そうしたら、植物が自由に生い茂っていて、とてもワイルドで……。

**湊真人** 妻にはいつも叱られています(笑)。最初にお会いしたときに、1年後と2年後、それに10年後の景色はまったく異なるものになります。もし最終的な景色を想定し、それを追いかけるようにつくるのなら、それは私にはできませんとお伝えしました。するとメンテナンスも含めて依頼してくださった。それなら長い目で見てできることを期待されていると思いました。

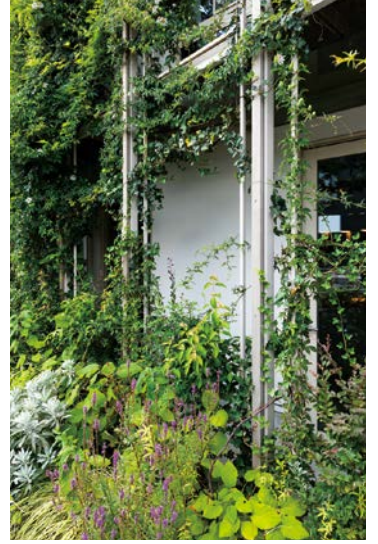
**比嘉** これまで手がけた公共建築で、計画した植栽がメンテナンスされず、ひどい状態になるという経験をしました。そこで「LIGUNA/0」では、その後のメンテナンスもかわっていたことにしたのです。湊さんとLIGUNAの代表とが初めて顔を合わせたときの、お互いの熱がシンクロしていく様子を今でも覚えています。そのとき湊さんは「土に植えないと、どうなるかわかりません」と言うのです。だから、あえて雑多に植えて、調整しながら



→擬木やスチールの方立に、ツル性の植物が自然にからんで、建築と一体化している。足元の花々が、季節ごとに異なる表情を与える。

←藤のツルが、1階からついに屋上にも到達した。来年の春先には、建物が藤色に彩られる。

↓2階のメンテナンス用のデッキ。風通しもよく、間近で植物の状態を確認できる。



→長期を想定した植栽計画ながら、意図的に成長の早い植物を織り交ぜたことで、短期間ながら豊かな環境を実現した。

←鉢植えをはじめ、屋上にも豊かな植栽が。また、地下水を屋上に溜めて、植物へ散水する仕組みも設計されている。



競合せませましようとおっしゃったのです。何か生態系をつくるような話で、これはすごいぞと思いました。

川原田 そうした生態系のイメージは、まさにLIGUNAのイメージと一致する気がしましたね。

湊 私も若い頃に公共の仕事に携わる機会が多くありました。しかし、その後に見る影もなくなってしまう。そんな仕事を繰り返すなかでのご依頼でした。生き物が相手ですから、今と10年先、20年先ではすべきことは当然異なります。10歳の子にすることを、1歳の子にしていたらおかしいでしょう。それと同じです。

## 植物を介して 建築とコミュニティが 親和する

——「LIGUNA/0」は、積年の思いを叶える仕事でもあったわけですね。

湊 建築家とクライアントのおかけです。「植物のことだから、どうなるかわかりませんよ」なんて言えるのは、この歳になってもしまったからでしょうね(笑)。私はこの「LIGUNA/0」の壁面は「庭」だと考えています。そして、私にとって庭とは人間と自然とのあいだの精神を表現する場です。また地域との接点、時代との接点、建築と街との接点など、さまざまな中間を調停するものだと思います。

最初に川原田さんが書かれていた植栽計画を見ましたが、正直驚きました。レベルが高く、本当に植物のことをご存知でした。一方で、成長率を考えると生い茂るまでに

時間がかかりすぎるとも思いました。クライアントは企業です。いくら長い目で見るとはいえ、いつまでも緑が充実しないというのでは具合が悪い。

そこで一部の樹種を変え、早く成長する植物も混ぜました。そのひとつが藤です。早く茂ってほしいと願い、いつも来るたび「藤がんばれ」って応援していました。もう2年で屋上まで達しましたね。来年の春先には、きつと藤色で覆われます。また低木に西洋アジサイのアナベルを植えました。これも成長が早い植物です。このアナベルも藤も、あと数年したら抜いてしまうかもしれません。

——え、抜いてしまうのですか。剪定ではなく？

川原田 驚きますよね。いかに植えたものを維持するかがメンテナンスだと思っていました。湊さんは抜いてしまうとおっしゃるんです。

湊 アナベルのような植物が茂りすぎると、下の草が成長できません。そのためにも抜いてしまう。抜けば「空いたぞー」と一気に次の植物が成長しはじめます。

メンテナンスをしていると、ここを通る方が声をかけてくれます。また違う植物が咲きましたね、と。近くの園児も花を楽しんでくれているし、レストランのスタッフが花を摘んでテーブルに活かしてくれています。そしたらお客さんが「素敵、ただけ？」なんて……そんな会話も含めて多様性



Minato Masahito

と喋っているのではないのでしょうか。

比嘉 私はこうした湊さんの考えは、建築の計画論を刷新できる話だと思っただけです。だから、湊さんの考えにふさわしい新しい言葉をつくりたい。少し前にジル・クレマンの『動いている庭』が話題になりましたよね。フランス人は、さすが言葉がうまいですね(笑)。でも、湊さんの感覚は時間を含む4次元的なもので、コミュニティも含むし、それに非常に立体的です。——植物を使うにあたり、設計上での工夫はありましたか。

比嘉 意識したのは植物と建築との重層性

## 造園家 湊 眞人

庭とは、  
建築や地域、時代との  
接点となり、両者を調停  
するものだと思います。

です。建物の外周には植物をからませるための線材がついていますが、金属、木、擬木と材料はさまざまです。

川原田 一律の素材でないのは植物のからみややすさもありますが、ファサードにリズムをもたせたかったからです。この建築自体も植物に見える、そうした植物との親和性を考えています。

湊 それと最初にかがったのは、どのようになら植物を生やしたいかです。早く縦の線を消したいか、あるいは面で植物を生やしていきたいか。それによっても樹種が異なる

ります。

また時間の問題もあります。最初は下のほうがあまり育たないことも懸念されたので、低木を多く植えました。たとえば先ほどのアナベルに加え、ムクゲ、ヤマボウシなどです。一気に伸びるものと、グラウンドカバーになる純粋な草、それに加え低木を設けました。でも草が生い茂ってきたら、中木と低木は抜こうかなと思っています。

比嘉 建築でもよくコミュニティの話題が出ますが、人のつながりばかりではきびしいなと思っています。一方で、どうなるかわからない庭をもっていることで自ずと寛容さが生まれてきますよね。それは、今社会も求めていることではないでしょうか。

湊さんの仕事は、造園を通して地域全体とかかわることが特徴です。地域のケアラ1とでもいうのでしょうか。虫が他所から来る、歩いてくる人が会話する、中で働いている人がいる。そんな風景を見ると、ここでは人も環境の一部にすぎないと思わされます。

湊 日本では、住宅の面積に比べてあまりにも公園の面積が小さいのです。それなら、まず身近なところから変えていかなければしょうがありません。公園だけやって、都市の緑化だといっても絵に描いた餅じゃないですか。

## 時間を止めない

### これからの

### 計画のあり方

——今後、こうした植物と建築との融合を、展開したい場所はありますか。



↓階段室。動線のコアであり、設置された輻射パネルが建物内の空気を動かす。まさに建物イメージである「循環」のシンボル空間。

↑レストラン前のテラス。外壁と緑化面に挟まれた心地よい空間になっている。



1階のレストラン。商品紹介のブースも設けられている。

Special Feature  
The Fusion of  
Greenery  
and  
Architecture  
Case Study

# 04

**比嘉** やはり公共で同じことをやりたいですね。LIGNAはユニークな企業なのでできました。しかし、公共の問題は残されています。一度つくったらノーマンテナンスでいこうみたいなレベルではいけません。計画とは、どこか時間を止めることを意味してしまっています。湊さんのように4次元でものを考えたいです。

**川原田** つくったときがベストみたいな建

築のあり方は、変わってきますね。コントロールがきかないことはネガティブに語られますが、はたしてどうでしょうか。湊 最近は雑草と、雑草じゃないものの区別がよくわからないんです。昔は、雑草を刈り取って「ここはバターの練習ができるぞ」なんて自慢していたくらいでした。でも雑草にトンボが飛んできて、計画した植物には留まらなかったらどうでしょう。そ

れを摘み取る気になれますか。造園家もこれまででは、どう自然をコントロールするかを考えてきました。でもそれは自分の想像の範囲でしかものがつくれないので、つまらない話です。相手の命は輝いているのに、それを無視してよいとは思えません。

**比嘉** やはりこの湊さんの考えに、何か名前を付けたいです(笑)。

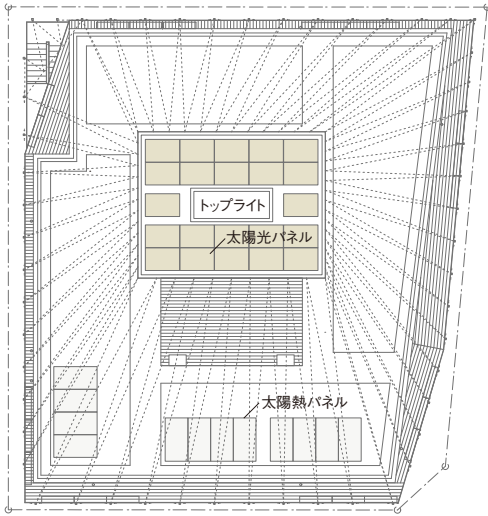


# 平面図

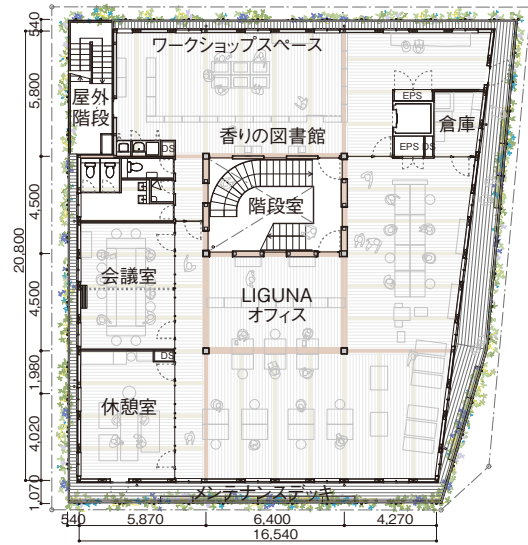


0 2 4m

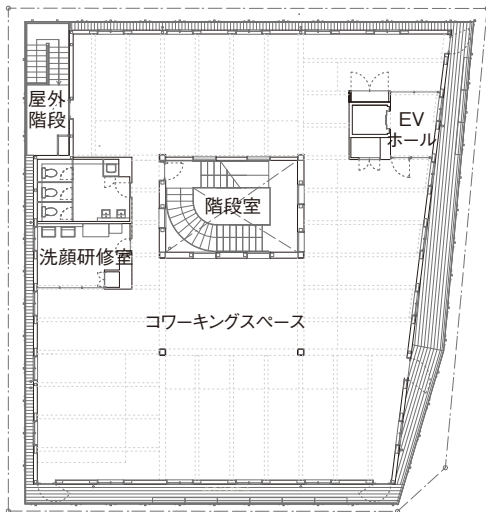
1/350



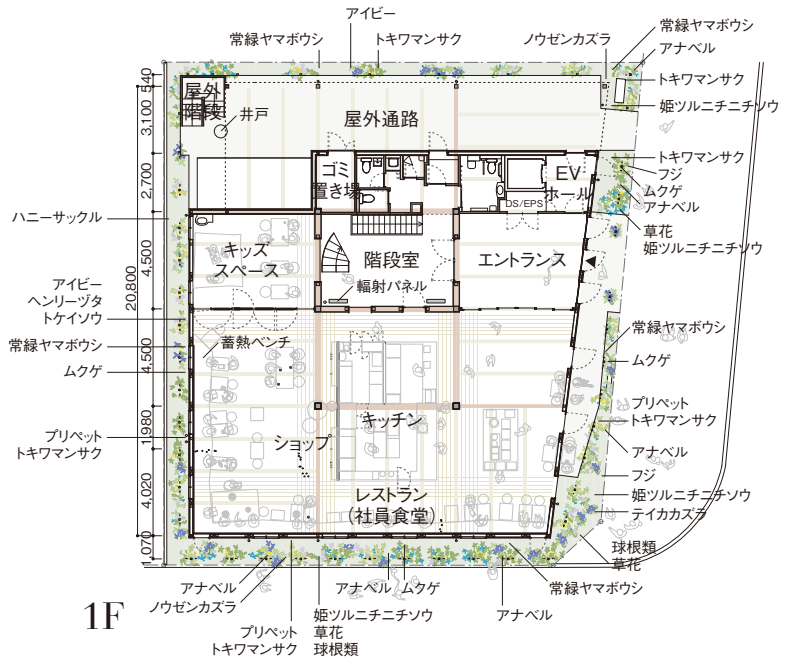
Roof plan



2F



3F



1F

造園家

Minato Masahito



湊 真人

みなと・まさひと / 1950年神奈川県生まれ。74年宇都宮大学農学部卒業。総合庭園研究室勤務を経て、05年耕水設立。多数の公共事業で造園・植栽計画を手がける。おもな造園作品＝「戸田村はかま滝オートキャンプ場」(97) など。

建築家

Higa Takehiko



比嘉武彦

ひが・たけひこ / 1961年沖縄県生まれ。86年京都大学工学部建築学科卒業。86～04年長谷川逸子・建築計画工房勤務。01～04年比嘉武彦建築研究所主宰。05年川原田康子とkwhgアーキテツツ設立。

建築家

Kawaharada Yasuko



川原田康子

かわはらだ・やすこ / 1964年山口県生まれ。87年早稲田大学理工学部建築学科卒業。87～98年長谷川逸子・建築計画工房勤務。99～04年KwhDアーキテツツ主宰。05年比嘉武彦とkwhgアーキテツツ設立。

kwhgアーキテツツのおもな作品＝「武蔵野プレイス」(11)、「岐南町新庁舎」(15)、「桜川市立桃山学園」(18) など。

# LIGUNA / 0



## 建築概要

所在地	東京都小金井市
主要用途	事務所、飲食店
設計	kwhgアーキテクト
構造設計	梅沢建築構造研究所
構造	地上:木造、鉄骨造 地下:RC造
施工	佐藤秀
階数	地下1階、地上3階、塔屋1階
敷地面積	488.00㎡
建築面積	432.02㎡
延床面積	1,263.05㎡
設計期間	2017年10月~2018年11月
工事期間	2018年12月~2019年11月
造園計画・工事	耕水

## おもな外部仕上げ

屋根	勾配屋根: ガルバリウム鋼板堅はぜ葺き 塔屋:金属複合パネルのうえ シート防水 メンテナンスデッキ: コンクリート ウレタン塗膜防水
外壁	窯業系サイディングのうえ 低汚染アクリル樹脂塗料
開口部	アルミサッシのうえ アクリル焼き付け塗装

## おもな内部仕上げ

レストラン(社員食堂)	
床	後打ちコンクリート 金ごて仕上げのうえ 浸透性表面強化仕上げ材
壁	PB-F AEP
天井	有孔PB AEP
2階オフィス	
床	OAフロア 木質仕上げ材
壁	PB-F AEP
天井	有孔PB AEP
3階コーキングスペース	
床	OAフロア 木質仕上げ材
壁	PB-F AEP
天井	木毛セメント板 AEP

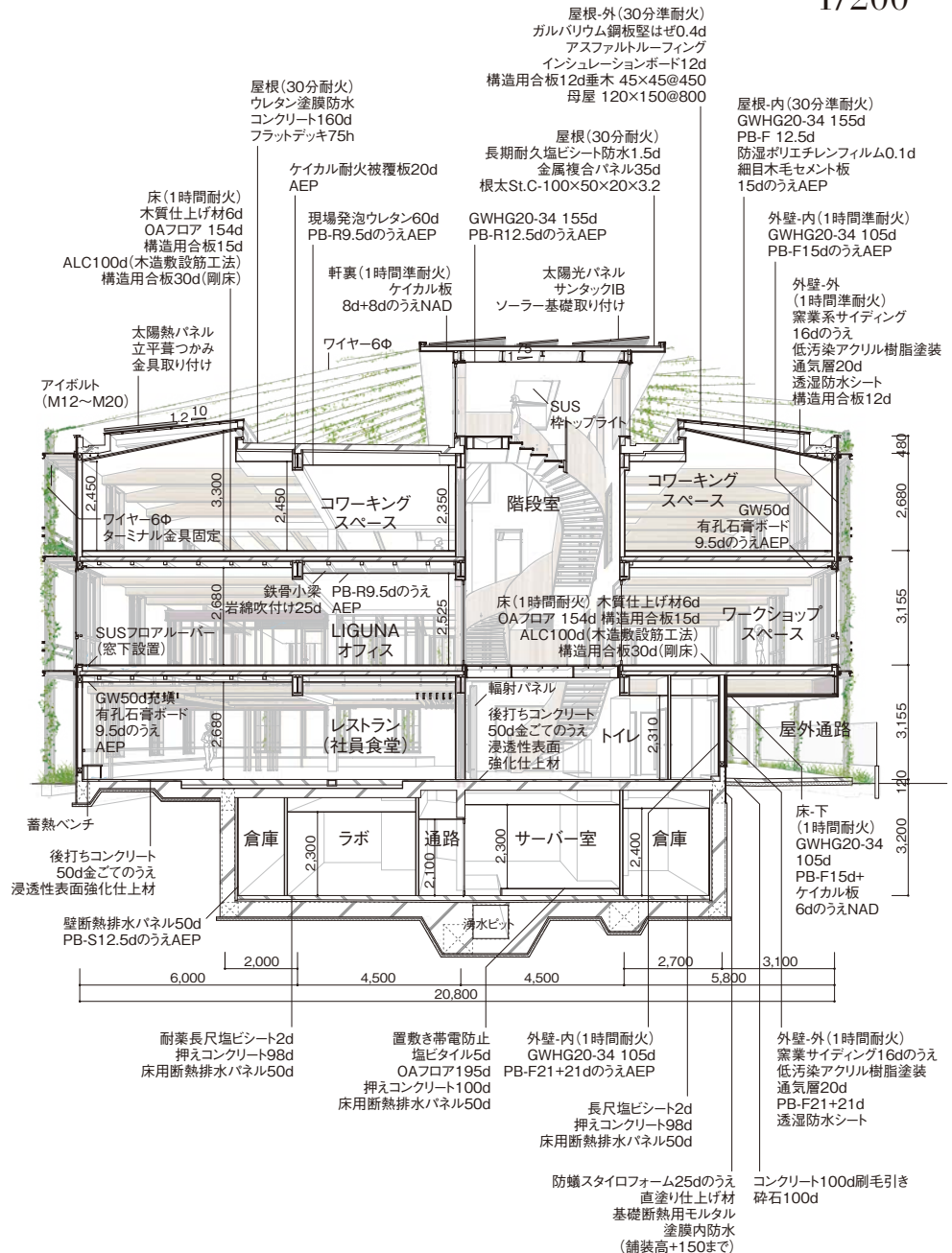


左から、3階コーキングスペース、2階LIGUNAオフィスと、植物やアロマ関連の書籍を集めた「香りの図書館」。

## 断面図

0 1 2m

1/200



領有に明け暮れた国境のホテル

トリエステという街はイタリアの北東の端にあってアドリア海の最奥部。スロベニアとクロアチアにまたがったイストラ半島がすぐ近い。国境の街といってもいい。

第一次世界大戦前まではオーストリア・ハンガリー帝国の港湾都市として大いに栄えたというからこのような女帝の名を冠したホテル名称にもなっている。その後イタリアと当時のユーゴスラビアも帰属をめぐって争った。

目まぐるしく各国が領有したから文化も混在し、建物もウィーン風などがあって独特の雰囲気がつくられている。

いくつもの埠頭、さびついた大倉庫群や銀行などの建築物はかつての栄華を物語る。廃墟と伸びた雑草、古い路面、そんな変わり果てた姿を見歩くのもおもしろい。栄枯盛衰のたくさんのお話がある。そんなお話がある。そんなお話がある。そんなお話がある。

「グランド・カナル」という短い運河には笑ってしまうが、そういえばヴェネツィア共和国とも長い戦争をしていたこともある。今は中国絡みで「一带一路」関連の港湾都市のひとつとして取り沙汰されているというが、いつの時代でもここが要衝の地とされることに変わりはないのだ。

このホテル、ちよつと古いが白とローズ色ファサードの五つ星。36室。ミラマール城(\*1)に至る海岸通りに面して路面電車を使えば街の中心からも遠くない。

ゲストルームはさして広くないのに家具などもデスクこそ小さいがすべてセオリーどおりに揃い、よくできている。

バスルームにはなんでも揃っている。ペデスタルの地でもあることの証し。ペデスタル(\*2)型のベイスンもなつかしい。

バスタブ、ベイスン、便器、ビデ、シャワーなどのほかに、ミラー、拡大ミラー、ドライヤー、受話器、紙巻器、ティッシュボックス、照明、カップホルダー、化粧棚、トラッシュボックス、ソープトレイ、タオル



ミラマール通りに面したホテルのファサード。

ルバー、ハンドレール、シャワースタリオン、ハンドタオル、フェイスタオル、バスタオル、マット、ソープ、シャンプー、コンディショナーなどアメニティはたくさん……よくぞこの狭いバスルームにと驚くほど。

カーテンワークはバランス(\*3)もカスケード(\*4)もあるウィンドー・トリートメントされた本格的な設置。

海岸通りを少し歩くとレストランなどがたくさんあり、開放的だがちよつとおしゃれ。

このホテルにもフォーマルなダイニングルームのほかに、キラキラしたアドリア海や別荘群を望めるカフェが屋上にあって明るい陽光のもと、朝食がすてきだ。

こんなところに長逗留して厚い本でも読んで過ごしたいものだが……。

1994年冬にこの連載を始めてから28年、115回を数えるがこの回をもって筆を擱こうと思う。連載の意義、取材の可否、コロナ禍などを考慮してのことである。この間「旅」のイメージも変わり、バスルームも進化した。これからは社会や経済、人間関係や大国の均衡すら変わる予感がある。

それにしても宿泊したゲストルームを実測してまずいスケッチを描き、まわりの風物や歴史に触れて書き記すという不思議な行為をよく続けてきたものである。それを読んでもくださったみなさまに深く感謝してお礼を申し上げます。

長いあいだありがとうございます。

\*1 ミラマール城…トリエステ近郊にある城館。1860年頃オーストリアのマクシミリアン大公によって築かれた。  
\*2 ペデスタル…柱状をした台。洗面ボウル下の柱状の形は配管のカバーを兼ねている。  
\*3 バランス…カーテンの上部飾りのこと。Valanceと綴る。  
\*4 カスケード…カーテンの「ひだ」を幾重にも滝のように施す縁飾り。



「グランド・カナル」沿いのカフェ。

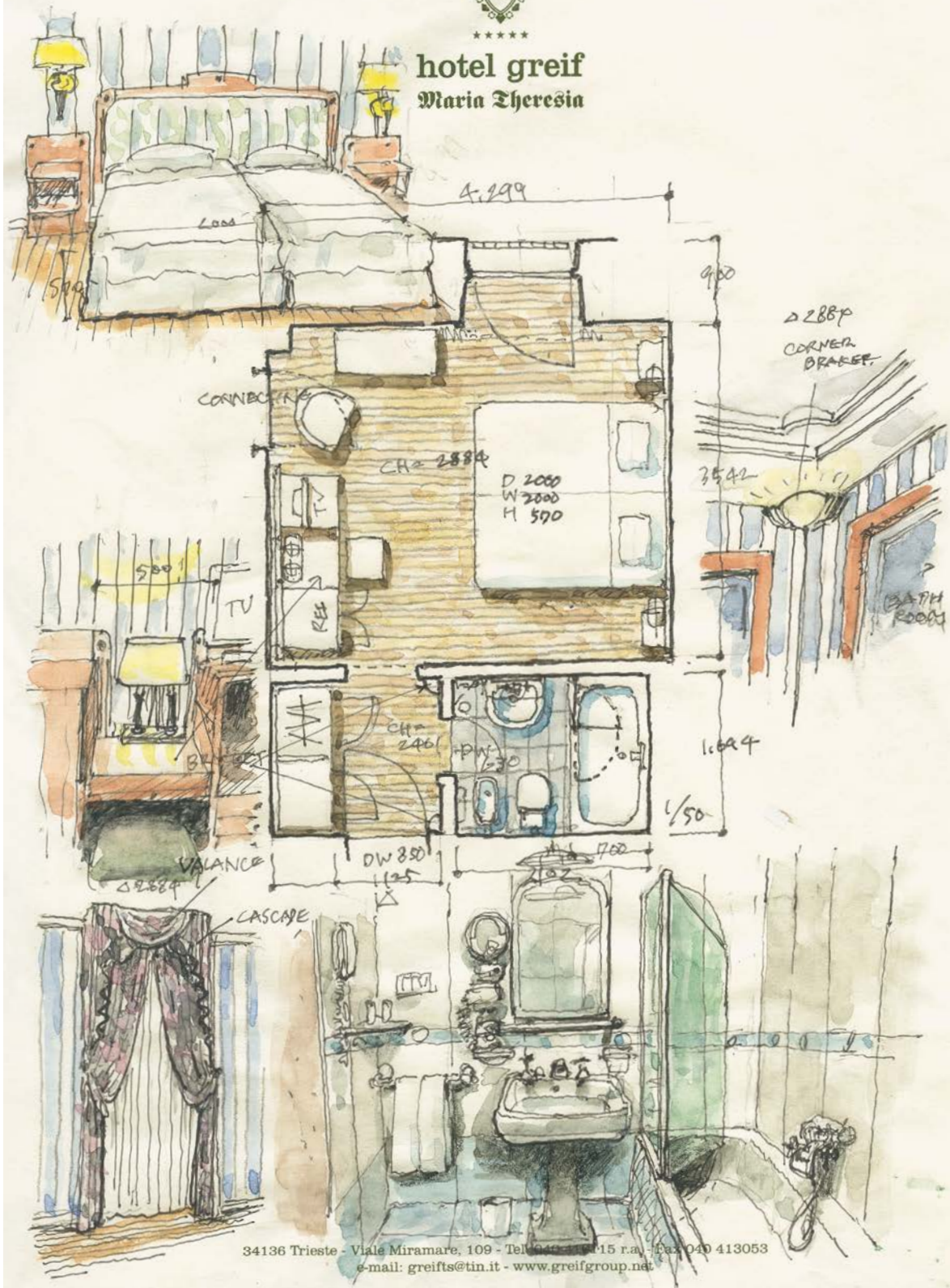
うら／かずや／建築家・インテリアデザイナー。1947年北海道生まれ。70年東京藝術大学美術学部工芸科卒業。72年同大学大学院修士課程修了。同年日建設計入社。99〜2012年日建スペースデザイン代表取締役。現在、浦一也デザイン研究室主宰。著書に『旅はゲストルーム』（東京書籍・光文社）、「測って描く旅」（彰国社）、「旅はゲストルームⅡ」「旅はゲストルームⅢ」(ともに光文社)がある。





\*\*\*\*\*

# hotel greif Maria Theresia



バスルームは  
小さくても  
備品でいっぱい。

Hotel Greif Maria Theresia

Add/ 34136 Trieste -Viale Miramare, 109 Italy  
Tel/+39 040 410 115  
URL/hotelgreifmariatheresia.com/en/index



# 高床の家

設計 福島加津也 + 中谷礼仁 / 千年村計画  
福島加津也 + 富永祥子建築設計事務所

山を背に水田を前に

文／藤森照信

Text by Fujimori Terunobu  
Photographs by Fugo Hitoshi

連載

現代住宅  
併走 第五十一回

写真／普後 均

# 貴

重な体験をした。中谷 礼仁と福島加津也が中谷の家として〈高床の家〉を建てたことを知り、見に出かけた先には予想もしない風景が広がっていた。

上野から常磐線に乗り、土浦で車に乗り換えて向かうと、長年続くこのシリーズに一度も登場しない、ということは都市圏や別荘地でも地方の町でもない、さらに奥のほうに位置する辺りにその家はあった。

段差なく広がる田んぼのなかを進むと、青空を背に小山が見えはじめ、近づくと小山の付け根に農家が集まり、さらに近づく、草葺きの家や白壁の土蔵も混ざっている。『日本昔話』で描かれる古い日本の村の光景が、個々の建物の仕上げを変えながらも、集落の骨格と建物の概形はそのままに今も生きている。

中谷には、千年村<sup>せんねんむら</sup>というおもしろい調査がある。『和名類聚抄』<sup>わなむらぎれいじゆしやう</sup>という平安時代後期に成立した記録にのる全国各地の集落を「千年村」と呼んで現状を調べる研究で、日本の村についてこれほど長いスパンで取り上げた建築史家はいない。

このシリーズで5年前に紹介した「三層の家」(TOTO通信 2016年夏号)も中谷が自分で手がけた実家で、場所は浅草の下町のドマンナカにあり、今度は一転、田舎のドマンナカへの転身、となると訪れずには

まずには惜しい。

よくぞこのような場所を見つけたものだと思心しながら、中谷に案内されて小高い裏山に上りはじめると、坂道の途中に古い石仏や墓が現れ、さらに上ると、そこは古墳だった。前方後円の典型的形式をとり、かつ、関東圏第二の大きさを誇るという。

村は今石岡市に属し、石岡には奈良時代、常陸国の国府が置かれ、国府の長たる国司は、奈良から常陸に下るとき、まず現在の東京方面に至り、さらに今よりずっと広がった霞ヶ浦を船で渡り、この村の近くにある湊(現在の神社の位置)に上陸し、国府に赴任したという。

## 4

縁から室内を見



## 2

壁には斜材の端部が顔を出す。床下は斜材と腰掛け。



## 3



## 現代 住宅 併走

Fukushima Katsuya + Nakatani Norihito × Fujimori Terunobu

弥生時代、中国南方の長江中流域に発した水田稲作が、どこをどう通ってか日本列島に上陸したとき、一緒に伴って入ってきた物質文化はふたつあり、ひとつは鉄器(青銅器を含む)、もうひとつは高床住居だった。

水田稲作、鉄器、高床住居の3つが組をなして、狩猟採集と石器と竪穴住居の3つからなる縄文時代の日本列島に上陸し、時代を縄文から弥生へと大きく動かし、その成果として古墳時代が生まれ、その後半に大王(天皇)が出現し、やがて国家が生まれ今の日本に至る。

中谷は、こうした大きな時間の流れのなかで、まず千年村に着目し、さらにさかのぼり古墳時代へ、さらにさらにさかのぼって弥生時代の高床住居を今に実現した、にちがいない。

弥生時代への着目という点では、建物の前の地面の様子もおもしろい。一見すると雑草の原のように見えるが、ちゃんと観察するとカボチャや豆類が植えられている。弥生時代は水田稲作とともに畑作も始まっているから、家の近くに畑、畑の向こうに水田という弥生的田園風景が企画されているが、でも農業の経験を欠く人物の企画であることは明らか。

私なら、水田の隣に里芋を植えただろう。信州の田舎はそうしており、なぜかが長らく不明であったが、のちに水田と里芋

に古墳時代にまで至る。本場に現在の集落がそこからずっと続いているかは定かでないが、歴史家の想像力はそこまで届く。ここまで考えてやると、この家の本質が見えた。田んぼのなかから遠望したとき、田んぼの稲穂の面より家が少し浮いて見えたし、近づくとはっきり浮いている。家の名も〈高床の家〉と直球。



5

室内から縁の方向  
を見る。

6

奥の凹部は施主の  
洞窟たる主室。

中央の広間の三方に部屋が広がる。

## 7

### 現代住宅 併走

Fukushima Katsuya  
+  
Nakatani Norihito  
×  
Fujimori Terunobu



はコンビとして長江流域に出現し、日本に上陸したとの説を知り、納得した。

こういう話を続けるとキリがなくなるから、「高床の家」の建築に移ろう。

私の予想した高床住居と、床を支える下の構造がまるで違っていた。弥生時代の高床住居は4本の掘立柱の上ののっぺいから、床下はもつとスッキリし、モダンな空間となっていた。なのに、この高床は4本柱に斜材（ブレース）を入れ、それも柱に外接して入れ、柱の外に延びる床を支え、さらに上に延びて壁を支え、その端が壁から顔を出す。筋交を用いることによって床下の外周柱をなくして使いやすくする意図が設計者の福島にはあったということだが、造形が勝ちすぎている。

中谷が書いた文によると、この構造を模型で一目見て「びっくりした。私はこの計画が福島側の手に移ったことを悟った」

## 8

西室から広間、さらに東室を見透す。

主室の造り付け本棚の向こうは寝室。

## 9



というから、私と同じように違和感を抱きながら、しかし、その方向にのっぺいすることを決めたのだらう。

## そ

うまでして中谷が高床でやりたかったことは何かと訝しく思い、上階に上がり、広間の床に座って水田のほうを眺めて理解した。この高さ上がった初めて、山を背に水田を前にして自分がある。ことを感じるができる。水田の広がり誘われて広間から縁へと移り、眼下に目をやると初めて稲の生育の様子もわかる。

広間から縁へと移り、水田から稲への視線の変化を経験して、桂離宮の月見台の演出を思った。まず室内から竹製の月見台におぼろに映る月の姿に気づき（竹には月が映るかどうかを高過庵で試し、確かめている）、月影に誘われて月見台に水平移動すると、月は月見台から池の面へ移り、水と月と竹から成り立つ、月

の桂」の演出は完成する。

この高さを、この高さからの光景を中谷は欲したのだ。

建築の高さについて、高過庵でのあれこれ思い出す。伊東豊雄は、イタリアでのパラディオの住宅を例に「賢者の高さ」について語ってくれた。町より少し高い位置に住むのが賢者の知恵だという。私は、ブリュッゲルの絵の視点が地上より少し高いことの秘密を、高過庵（2004）から畑仕事に勤しむ人の姿を眺めて知った。地上より高く、神より低く。中谷は、高過庵の高さを、「霊のただようあたり」と評した。

浅草の「三層の家」について、隠れたテーマは、地に漂う霊をどう上へと導くかです、と語っている。とすると、地から上へと抜けた霊は、5年して、山を背に水田を前にした高床の高さに漂い着いた、ということか。漂い着くとそこは弥生の里だった。



## 高床の家

建築概要	
所在地	茨城県
主要用途	専用住宅
設計	福島加津也+中谷礼仁/ 千年村計画 福島加津也+
	富永祥子建築設計事務所
施工	渡辺建工
敷地面積	342.17㎡
建築面積	82.81㎡
延床面積	82.81㎡
階数	地上2階
構造	木造
竣工	2021年4月
図面提供	福島加津也+ 中谷礼仁(イラストレーション)



写真右から福島加津也さん、藤森照信さん、中谷礼仁さん。

### 中谷礼仁

1965年、東京の三ノ輪に生まれ、早稲田大学で建築史を学び、現在は早稲田大学教授。建築史という分野は、初代の伊東忠太このかた歴史研究と建築設計の両方にまたがる者が時々現れるが、建築の設計という行いが過去の成果を栄養とすることを思うと、当然のあり方にちがいない。歴史研究を続けると、「建築とは、自分とは」という本質論が歴史の表ににじみ出てくるが、中谷はそういう辺りにある。

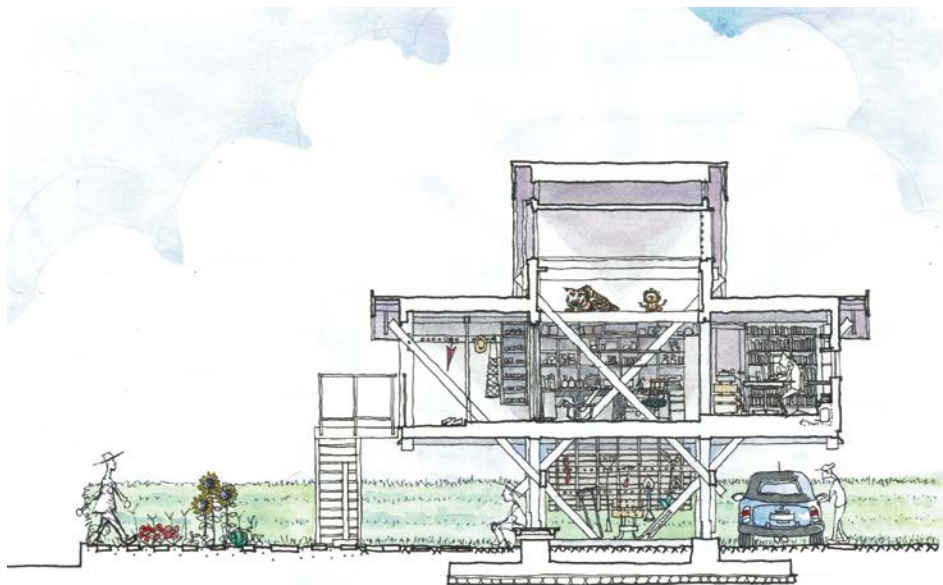
### 福島加津也

1968年神奈川県生まれ。90年武蔵工業大学工学部建築学科卒業。93年東京藝術大学大学院美術研究科修了。94～2002年伊東豊雄建築設計事務所。03年より福島加津也+富永祥子建築設計事務所共同主宰。東京都立大学工学部建築学科教授。

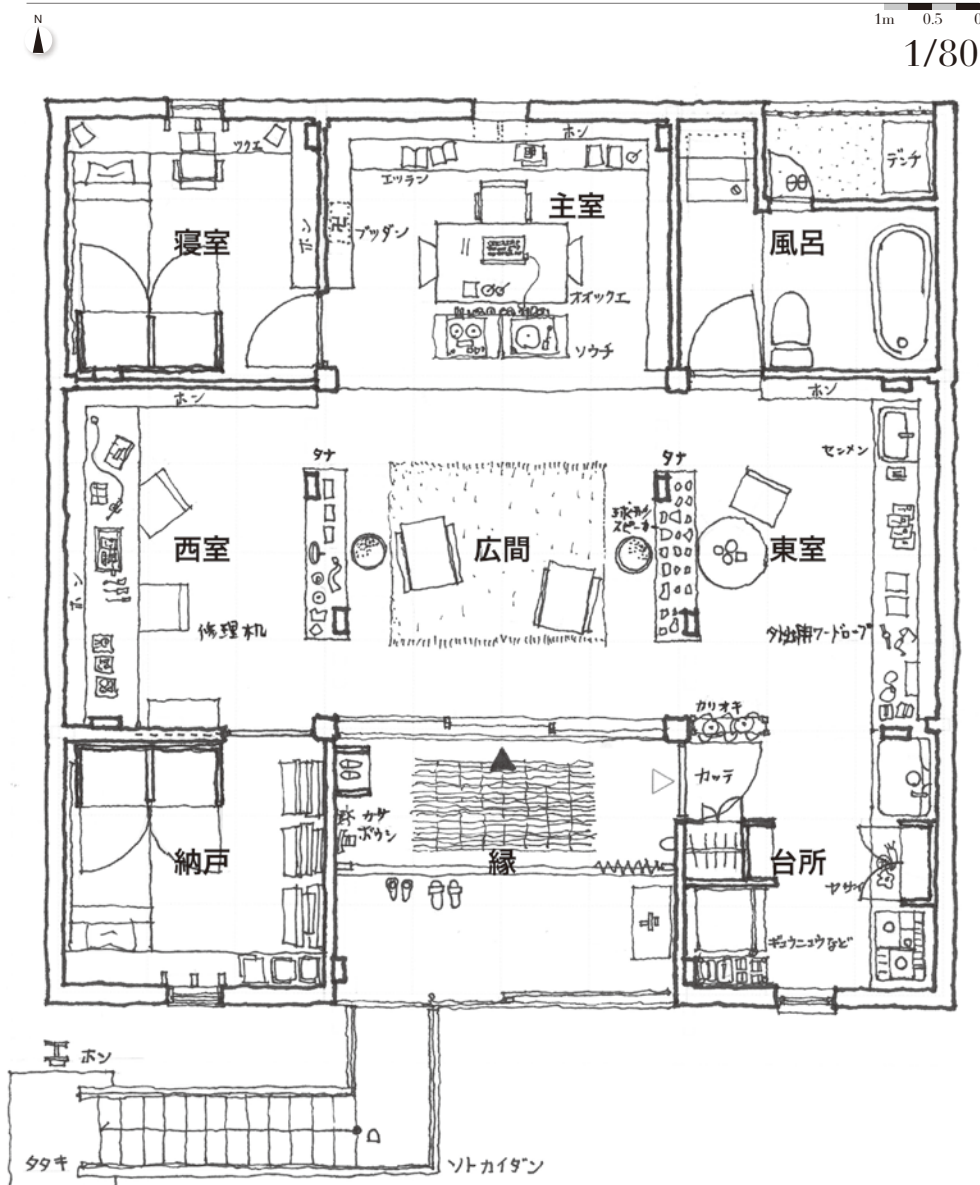
### 藤森照信

建築家。建築史家。東京大学名誉教授。東京都江戸東京博物館館長。工学院大学特任教授。おもな受賞=『明治の東京計画』(岩波書店)で毎日出版文化賞、『建築探偵の冒険東京篇』(筑摩書房)で日本デザイン文化賞・サントリー学芸賞、建築作品「赤瀬川原平郎(ニラ・ハウス)」(1997)で日本芸術大賞、「熊本県立農業大学校学生寮」(2000)で日本建築学会作品賞。

## 断面図



## 2階平面図



TOKYO TORCH

## 常盤橋タワー

TOKYO TORCH Tokiwabashi Tower

南東側から見た外観。



リアルとリモートの  
ハイブリッドのなかで  
行きたくなくなる  
オフィスを目指して

取材・文／大山直美 写真／傍島利浩

日本を照らす  
トーチのような  
超高層

三菱地所が再開発を進める東京駅日本橋口前の街区「TOKYO TORCH」(トウキョウ・トーチ)に、2021年6月、プロジェクトの第1弾である「常盤橋タワー」が竣工した。

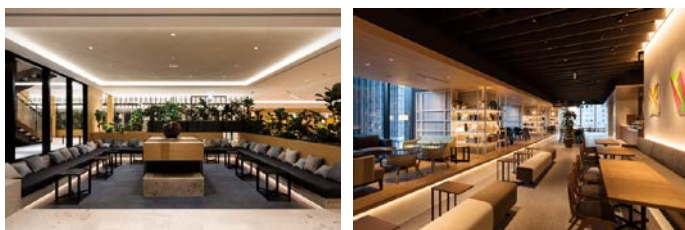
トウキョウ・トーチといえば、2027年度に完成予定の地上63階建ての「Torch Tower(トーチタワー)」の頂部デザイン監修を藤本壮介氏が行うことが話題を呼んでいるが、今回完成したのは、同じ街区内に立つ38階建てのオフィス+商業施設の複合ビル。トーチタワーのあまりの大きさに比べると小さいが、高さ212mは実は完成時点では大手町エリアで最高で、敷地がかつて江戸城に通じる常盤橋御門が築かれた歴史ある場所

あることから、外観デザインには「刀」のイメージが取り入れられている。

この街区面積3・1haにおよぶエリアにはもともと5棟のビルに加えて下水ポンプ場と変電所があった。これらの都市インフラを稼働させながら10年がかかりで順次、解体と建て替えを進め、最終的に2棟の超高層タワーと地下変電所+広場、下水ポンプ所の計4棟として再生するという息の長い計画だ。

三菱地所の岩崎哲也さんによれば、プロジェクト全体のテーマは「日本を明るく、元気にする」。トーチというモチーフもその象徴として選ばれたという。たとえば、今回先行して常盤橋タワーとともに整備された広場には、錦鯉が泳ぐ池が設けられているが、これは新潟県小千谷市との協業によって実現したもの。ほかにも全国の自治体と協業し、東京駅前から日本の地域

写真右／3階の「MY Shokudo」。オフィスの社員が共用で使えるカフェテリアラウンジ。一部一般向けにも開放している。左／同じく社員向けの8階のラウンジ。



文化の魅力を世界に発信するさまざまな取り組みを行っている。常盤橋タワーの最大の特徴は、新しい働き方をサポートするための場とサービスが非常に充実している点にある。「計画当初は10年先と想像していたリアルとリモートのハイブリッドといった働き方が、コロナ禍によってここ2年ほどで加速度的に進みました。リアルに働く場をつくる私たちとしては、働く人が来る必然性を感じるような機能をもつビルをつくっていかなければ生き残れないのではないかと感じています」と岩崎さんは語る。

多用した明るく開放的な空間に、ゆっくりソファでお茶が飲める場や、夜はお酒も楽しめるカウンター席など、多様なコーナーが設けられている。

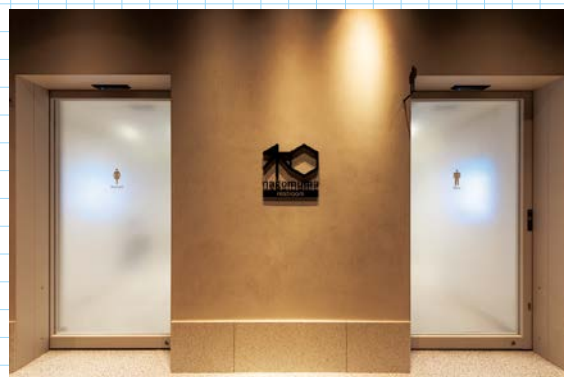
「また来たいと思えるような気持ちのいい空間をつくることによって、単に短時間に胃を満たす社食ではなく、くつろいだり、仲間や異なる企業同士の人も会話を楽しんだりすることで新しいアイデアが生まれる場にしてほしいと考え、当初は飲食店が入る予定だったフロアをすべて自分たちで運営する食堂に変えたんです」と岩崎さん。オフィスビル内にこうした共用の食堂を設けるのは、三菱地所では初めての試みだという。

一方、8階も同じくテナントの社員なら誰でも使える共用スペースで、ラウンジや大会議室などを完備。企業を超えたシェアオフィスのような趣だ。





↑  
女性トイレの全景。内装の異なる六角形の個室内部が見える。

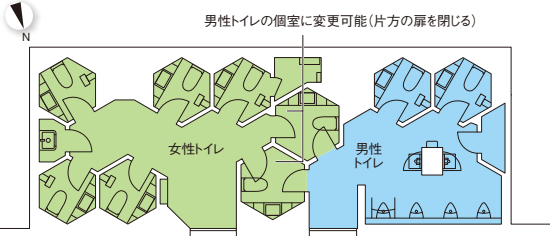


入口。ロゴのとおり、「<sup>なご</sup>和む」ことをテーマにしたトイレ。 >>

## 3F nagomuma restroom 平面図

0 1 3m

1/200



### 女性トイレ



洗面台や鏡は個室にあるため、個室完結型のブースになっている。 ↑

### 男性トイレ



個室はふたつあるが、不足時には最大4つまで拡張可能。 ↑

個室



↑ IoTを活用し、トイレの空き状況を入口のサインエージで確認することができる。



おちつき



ひらめき



いきぬき



くつろぎ

「和む」ことをコンセプトとしているため、リラックスを演出するために4種類の異なる内装を採用している。「くつろぎ」はブラウン基調の木目調、「いきぬき」はベージュ基調、「おちつき」では都会的な洗練を目指し、「ひらめき」はホワイト基調になっている。

異なるシーンに対応する六角形のトイレ

さて、働く人が来なくなる場を目指すオフィスビルだけに、当然トイレにも並々ならぬ力を入れていく。前述のとおり、地方自治体との協業に取り組む三菱地所では、他企業とのコラボレーションにも注力しており、TOTOも協業先のひとつ。両者は未来のオフィストイレはどうあるべきか、協議を重ね、食堂のある3階に先進的なトイレを生み出した。その名も「nagomuma restroom (ナゴムマ・レストルーム)」。

最も画期的なのは小便器コーナーを除き、男女とも洗面台を完備した六角形の個室ブースを基本とした点にある。しかも、ブース内の内装にはブラウン調の「くつろぎ」、ベージュ基調の「いきぬき」、グレイトツシユな「おちつき」、ホワイト基調の「ひらめき」の4種類があり、まず入室して鍵をかける天井・鏡・足元の照明が点灯し、着座すると内装ごとに異なるサウンドが流れるという凝った仕掛け。

岩崎さんによると、当初はジエンダーレストイレを追求するなかで個室完結型を基本にすることが決まり、次に今後のトイレはリフレッシュの場としての役割がより大きくなるだろうと

## 8F

## 男性トイレ

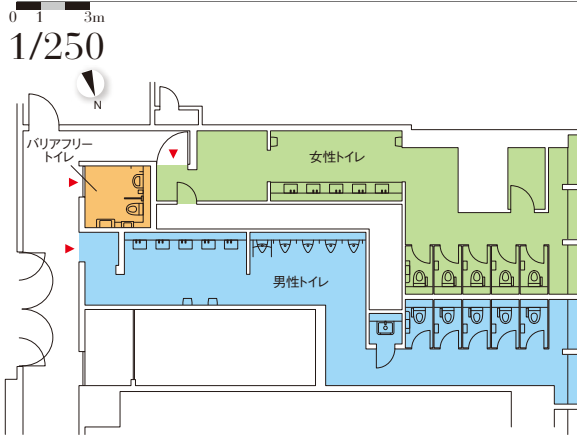
街区全体のロゴにあわせて、トイレにもコッパー色を採用。

## 個室

鉤の手状に曲がった平面の奥には男女ともに個室が並んでいる。



## 8F トイレ平面図



## 女性トイレ



手前にスタイリングコーナー、洗面台。突き当たりを曲がると個室。

いう予測から、光や音の機能が付加されていたとのこと。見学した人はみんな口を揃えて、「このトイレは落ち着くから長居しちゃうねとおっしゃいます」と笑うのは、設備設計を担当した三菱地所設計の高西茂彰さん。また、男女トイレの境にある2ブースには2辺にドアがあり、混雑データを分析しながらシーズンごとに切り替えて使用できる。高西さんによれば、食堂に隣接するため当面はランチ時の混雑を想定し、男性トイレに小便器と洗面コーナーを設けることにしたが、将来はすべてが六角形ブースの個室完結型に改修することも可能だそう。

さらに、トイレの入口には各ブースの空き状況がわかるサイネージを設置。事前にここで確認して好みの内装のブースを選ぶことも可能だ。IoTの活用としてはこのほかにも、TOTOの「設備管理サポートシステム」を導入しており、ウォッシュレット、小便器、オートソープディスプレイ、自動水栓、電気温水器の使用状況が遠隔で一括管理できる。これまで水石検査がないよう何度も見まわったり、季節によって温水の温度設定を個々に行ったりしていた施設管理者の手間が大幅に軽減できることになる。

## 女性トイレ



◀◀ 個室。天井まで壁が立ち上がっている。書類が置ける低いライニング。

⤴ 通り抜けられるオフィスの基準階トイレ。入口にはスタイリングコーナーがある。

## 男性トイレ



女性トイレと同じく、通り抜けられる細長い平面。

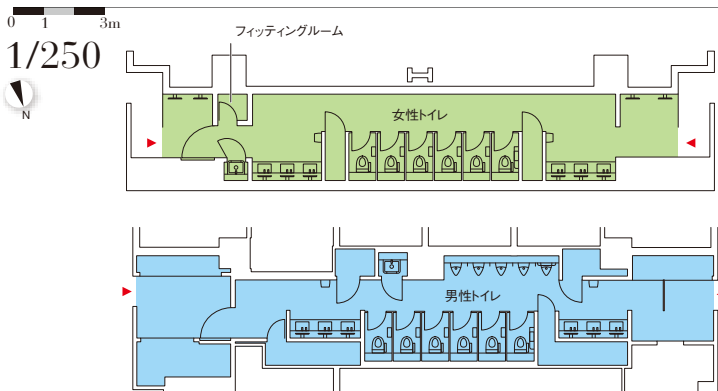
◀◀

## フィッティングルーム



入口脇にはフィッティング ⤴  
グループがあり着替えも  
できる。

## 23F トイレ平面図





南西側から見た外観。

## TOKYO TORCH 常盤橋タワー

### 建築概要

所在地	東京都千代田区大手町 二丁目6番4号
事業主	三菱地所
主要用途	事務所、店舗、駐車場など
設計	三菱地所設計
施工	戸田建設
敷地面積	5,455.97㎡
建築面積	4,037.15㎡
延床面積	約146,000㎡
階数	地上38階、地下5階
高さ	約212m
構造	鉄骨造、一部CFT造(地上) 鉄骨鉄筋コンクリート造、 一部鉄筋コンクリート造(地下)
設計期間	2015年4月～2017年12月
施工期間	2018年1月～2021年6月

### おもなTOTO使用機器

3F nagomuma restroom
● 男性トイレ
ネオレストAH CES9788
自動洗浄小便器 US900JCS
ポウラー一体型カウンター MKWD
自動水栓 TENA125AH
ハイドロセラフロアPU AB690EW
クリーンドライ(高速両面タイプ) TYC420W
壁掛ハイバック洗面器 LS125DM

● 女性トイレ
ネオレストAH CES9788
ポウラー一体型カウンター MKWD
自動水栓 TENA125AH

8F、23F
● 男性トイレ
腰掛式フチなしトイレノード便器(壁掛式) CS573P
自動洗浄小便器 US900R
ツインデッキカウンター UTNLCA
アンダーカウンター式洗面器 L505
自動水栓 TENA127AH

● 女性トイレ
腰掛式フチなしトイレノード便器(壁掛式) CS573P
ツインデッキカウンター UTNLCA
アンダーカウンター式洗面器 L505
自動水栓 TENA127AH



三菱地所  
TOKYO TORCH事業部  
事業推進ユニット兼開発企画ユニット  
統括

## 岩崎 哲也

Iwasaki Tetsuya



三菱地所設計  
機械設備設計部  
兼TOKYO TORCH設計室  
チーフエンジニア

## 高西 茂彰

Takahashi Shigenori

## トイレは テクノロジーの 集積

続いて、オフィス基準階の23階と、共用ラウンジのある8階のトイレを見学した。

基準階のトイレは男女とも両方向に抜けられる細長い空間で、入口の扉はなくし、両端に洗面コーナー、中ほどにブースを配したプラン。女性トイレには独

立したフィッティングルームを確保している。エレベーターホールや廊下など、基準階の共用部と同様に、ペーじュ系でまとめたトイレの内装にも3階の食堂に通じるやわらかさ、軽やかさ、明るさを感じられる。

また、一見ただけでは気づきにくいのが、男性トイレの洗面カウンターの高さは女性用より5cm高い85cm。かがむとネクタイが濡れたり水が跳ねたりしやすいため、洗面台の高さ、洗面

ボウルの深さなどを実際に検証しながら選定した。

8階はエレベーターバンクとの兼ね合いで、基準階とは異なる位置にトイレを設けているため、通り抜けはできず、開口部に面している。特別なフロアであるため、共用部のデザインも基準階とは多少変えているようで、トイレの内装も洗面コーナーの壁に男女それぞれ別の色を配するなど、よりスタイリッシュな印象だ。

最後に、設備設計の立場から今回のプロジェクトで印象に残ったことを高西さんにたずねたところ、興味深い答えが返ってきた。

「もともと衛生器具には着座センサーをはじめ諸々のセンサーが付いていますので、せっかくなら便器が主役となつて、いろいろな設備を動かしてシーンをつくればいいのではないかとご提案して、それが実現したこと

トイレはリフレッシュの場であると同時に、中で倒れている人や長時間もっている人がいないかといった管理データなど、いろいろな情報を取得できる場になると高西さんは言う。便器がハブとなり、今までバラバラだった建築設備とトイレ設備をつなぐ役目を果たすことで、さまざまな可能性が広がっていくのかもしれない。

TOTOからのお知らせページです。  
イベント、新商品、最新情報など知っておいていただくと  
お役に立つ情報を心がけています。  
あわせてご注目ください。

TOTOの最新情報

News 2

## TOTOギャラリー・間 北九州巡回展 増田信吾+大坪克亘展 それは本当に必要か。

TOTO GALLERY・MA Traveling Exhibition in Kitakyushu  
Shingo Masuda + Katsuhisa Otsubo: Is It Truly Necessary?

TOTOギャラリー・間では、北九州巡回展をTOTOミュージアム(北九州市)で開催いたします。建築家の登竜門と呼ばれる第32回「吉岡賞」ほかを受賞し注目されている若手建築家、増田信吾+大坪克亘の九州で初めての個展です。彼らの建築は、私たちの既成概念をくつがえし、日頃見慣れた風景が違って見えるような新鮮な感動を与えてくれます。本展覧会では、彼らの初期の作品「躯体の窓」、「リビングプール」から、「goodoffice 品川」などの最新作に至るまで、それぞれ

の設計過程を模型や図解により紹介します。本当に設計すべきことをどのように見出し、環境のなかで定着させていくのか、彼らの探求の軌跡をご覧ください。



展覧会会期	2021年11月16日(火) ~2022年3月6日(日)
開館時間	10:00~17:00
休館日	月曜

展覧会情報→  
<https://jp.toto.com/gallerma>

News 3

## 国際的な環境賞 GREEN GOOD DESIGN AWARDS 2021受賞

「Touchless Faucet」(自動水栓)が、環境配慮にすぐれたデザインと先進的なテクノロジーを有する製品に与えられる世界的な賞「GREEN GOOD DESIGN AWARDS 2021」を受賞しました。当賞の受賞は2015年、2016年、2018年、2020年に続き5回目、計6商品目

となります。自動水栓としては、2016年に続き2度目の受賞となります。

「Touchless Faucet」(自動水栓)が有する環境に配慮した最先端の技術や、ものづくりに真摯に取り組むTOTOの姿勢が高く評価されました。



詳しくはニュースリリース→  
[https://jp.toto.com/company/press/2021/06/07\\_011383.htm](https://jp.toto.com/company/press/2021/06/07_011383.htm)

News 1

## 妹島和世+西沢立衛 / SANAA展 「環境と建築」

KAZUYO SEJIMA + RYUE NISHIZAWA / SANAA: Architecture & Environment

TOTOギャラリー・間では、妹島和世+西沢立衛 / SANAA展「環境と建築」を開催いたします。

本展覧会は、妹島和世氏と西沢立衛氏が日本および世界各地で取り組んでいる最新プロジェクトを中心に構成したものです。SANAAは、「環境と建築」というテーマに長年取り組んできました。「金沢21世紀美術館」(石川県、2004年)、「ROLEXラーニングセンター」(スイス、2009年)、「ルーヴル・ランス」(フランス、2012年)に代表されるように、内と外を緩やかにつなぎ回遊性を高めることで、人びとの豊かで自由な交流と、周辺地域との新たな関係の可能性を提示しています。建物が媒介となり、人びとの暮らしと環境が織り混ざりひとつの風景となります。そんな建築のあり方を実現しています。こうした活動に



©Aiko Suzuki

より、妹島氏と西沢氏はプリツカー賞(2010年)など、数多くの賞を受賞しています。本展覧会は、当ギャラリーでは2003年以来2回目の個展となります。SANAAだけでなく、妹島氏、西沢氏それぞれの事務所のプロジェクトもあわせて展示することで、その後の両氏の活動の軌跡を紹介します。常に進化をつづける妹島和世+西沢立衛 / SANAAの現在進行形が見られる、貴重な機会となることでしょう。

展覧会会期	2021年10月22日(金) ~2022年3月20日(日)
開館時間	11:00~18:00
休館日	月曜・祝日

展覧会情報→  
<https://jp.toto.com/gallerma>  
事前予約制(予約サイト)→  
<https://jp.toto.com/gallerma>



『TOTO通信』送付先の変更などはこちらへご連絡ください。 → Tel 093-563-2055

お問い合わせは  
TOTO通信  
データ管理室まで

## B Book

### TOTO出版のお知らせ

**KAZUYO SEJIMA  
RYUE NISHIZAWA  
SANAA**  
1987-2005 Vol. 1/  
2005-2015 Vol. 2/  
2014-2021 Vol. 3

present!

世界で活躍する建築家、妹島和世氏と西沢立衛氏が主宰するSANAAと、それぞれの事務所のクリエイションのほぼすべてを紹介した決定版作品集。1987年の妹島和世氏のデビュー作から2021年現在の最新プロジェクトまでを網羅した、30余年の活動と思考の軌跡。建築、都市マスタープランから内装、家具、雑貨、書籍に至るまでが総覧



できる。ひとつの建築として著者自身が手がけたブックデザインにも注目いただきたい。

同封の「TOTO通信アンケート」にお答えいただいた方の中から、抽選で3名の方にプレゼントいたします。

著者 妹島和世、西沢立衛  
定価 24,200円  
(本体22,000円+税10%)  
体裁 237×303mm、ハードカバー、  
ケース入り3巻セット、全672ページ  
発行 2021年12月10日

## N News

News 4

### 「十人十家」で 叶える 憧れのリモデル

TOTO、DAIKEN、YKK AP(以下、TDY)の3社では、お客さまのさまざまな暮らしの想いを叶えるライフスタイル提案「十人十家」を進めております。新しい生活様式が広まりつつある今、TDYではお客さまの住ま

いや暮らしに対する価値観変化をとらえながらお客さまの暮らしの想いをリモデルで実現する20のプランを提案し、満足度の高いリフォーム実現を目指し3社で取り組んでおります。



くわしいプランはこちらへ。→<https://re-model.jp/10plan/>

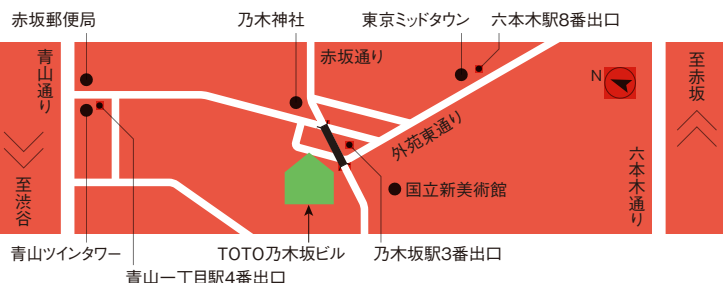
## I Information

### TOTO乃木坂ビル

東京都港区南青山1-24-3  
TOTO乃木坂ビル

- 3F** 電話/03(3402)1010  
TOTOギャラリー・間  
定休日/月曜・祝日・年末年始休暇  
入場料/無料、事前予約制  
※事前予約は、TOTOギャラリー・間ウェブサイト  
(<https://jp.toto.com/gallerma>)をご参照ください。
- 2F** 電話/03(3402)1525  
Bookshop TOTO  
定休日/月曜日・祝日・「TOTOギャラリー・間」休館中の土曜日・日曜日・夏期休暇・年末年始  
※「TOTOギャラリー・間」展覧会期間中は事前予約制。  
詳細はBookshop TOTOウェブサイト  
(<https://jp.toto.com/bookshoptoto>)をご参照ください。
- 2F** 電話/03(3402)7138  
TOTO出版  
全国の書店でお求めください。  
直営店Bookshop TOTOでもお求めになります。  
書店遠隔の方はお問い合わせください。
- B1・1F** 電話/03(3402)7134(東京ショールーム)  
セラトレーディング  
定休日/月曜日・祝日・夏期休暇・年末年始  
※事前予約制。  
変更の可能性があるため、詳細はウェブサイト  
(<https://www.cera.co.jp/showroom>)をご参照ください。

- アクセス  
●東京外口千代田線「乃木坂」駅下車3番出口徒歩1分  
●都営地下鉄大江戸線「六本木」駅下車徒歩6分  
●東京外口日比谷線「六本木」駅下車徒歩7分  
●東京外口銀座線・半蔵門線・都営地下鉄大江戸線「青山一丁目」駅下車徒歩7分



## C Cera

### セラトレーディングのお知らせ

### 「Additional Collections 2021」発行しました

セラトレーディングでは、2021年10月以降に発売の新商品を掲載した「Additional Collections 2021」を発行しました。オランダ・GEESA社より空間の仕上がりをもっと上げるバスルームアクセサリと、イタリア・ZUCCHETTI社よりカラーバリエーションが充実した洗面用水栓をご紹介します。水まわり空間のトータルコーディネートに、ぜひご検討ください。



「Additional Collections 2021」  
発行 2021年10月  
「Additional Collections 2021」はウェブサイト、またはファックスにてご請求ください。  
WEB→<https://www.cera.co.jp>  
FAX→03-3402-7185

次号「TOTO通信」は2022年4月発行の予定です。



## 気持ち、まいにち、きらめくキッチン。

はじめて出会ったときのときめきも、  
使うたびに感じるよこびも、色褪せることなく長続き。  
ひとつ上の満足を求める方にこそ、お届けしたいキッチンです。



### クリスタルカウンター

光を取り込み、キッチンに透明感を。  
使うたびに美しさを実感できる上質な  
仕上がりです。熱や衝撃にも強いので、  
料理がこれまで以上に楽しめます。



### タッチレス 「きれい除菌水」生成器

「きれい除菌水」専用の水栓に手をかざ  
すと、除菌効果のある水がミスト状で  
噴霧されます。タッチレスなので水栓も  
汚しにくく、いつでも手軽に清潔をキ  
ープできます。 2022.2 発売予定



### タッチレス水ほうき水栓LF (センサースイッチ・浄水器兼用)

水栓側面のセンサーに手をかざすだけ  
で、スムーズに吐止水。洗い物の途中  
でも汚れを気にせず、好きな時に止  
められます。 2022.2 発売予定



### フロアキャビネット

手を伸ばせば、使いたいときに使いた  
いものがサッと取り出せる大容量の収納。  
すっきり整とんでき、調理中の動作が  
スムーズに。

ようこそ、光のキッチンへ。

# THE CRASSO

ザ・クラッソ

お問い合わせは、TOTOお客様相談室へ  
**0120-03-1010**

受付時間 9:00～17:00  
(夏期休暇、年末年始は除く)

TOTOホームページ  
<https://jp.toto.com>

※詳細はカタログまたは弊社WEBサイトをご覧ください。

『TOTO通信』のお届け先などの変更はお客様さまNo. (封筒の宛て名ラベル右上に記載)も併せて下記までご連絡ください。  
TOTOカタログセンター内 TOTO通信データ管理室 TEL.093(563)2055 FAX.093(571)0999  
\*当社ならびに当社グループ会社は、個人情報の保護を社会的責務と考えます。お客様さまからお預かりした個人情報は、  
関連法令および社内諸規定に基づき慎重かつ適切に取り扱います。詳細はTOTOウェブサイト(<https://jp.toto.com>)をご覧ください。